

川西市  
子育て支援に関するアンケート調査  
結果報告書

令和6年6月

川 西 市



# 目次

I	調査の概要.....	1
1	調査の目的.....	1
2	調査対象.....	1
3	調査期間.....	1
4	調査方法.....	1
5	回収状況.....	1
6	調査結果の表示方法.....	1
7	相対的貧困世帯に関する分析の視点.....	2
II	調査結果（就学前児童調査・小学生児童調査）.....	4
1	居住地区について.....	4
2	子どもと家族の状況について.....	7
3	子どもの育ちをめぐる環境について.....	12
4	平日の定期的な教育・保育サービスの利用状況について（就学前児童）.....	30
5	保護者の就労状況について.....	46
6	川西市の子ども・子育て支援について.....	54
7	土曜・休日や長期休暇中の「定期的」な教育・保育事業の利用について（就学前児童）.....	75
8	病気の際の対応について.....	77
9	不定期の教育・保育サービスや宿泊を伴う一時預かり等の利用について.....	81
10	小学校就学後の放課後の過ごし方について.....	89
11	妊娠・出産時の状況について.....	99
12	仕事と子育ての両立支援について.....	102
13	地域における子育て支援について.....	112
14	世帯の経済状況について.....	115
15	これからの川西市の子ども・子育てについて.....	117
III	追加分析.....	120
1	就学前児童調査.....	120
2	小学生児童調査.....	142

IV	自由回答（就学前児童調査・小学生児童調査）	154
V	調査票	176
1	就学前児童調査	176
2	小学生児童調査	186

# I 調査の概要

## 1 調査の目的

子育て支援施策推進のための第2期「川西市子ども・若者未来計画」を策定するにあたり、「子ども・子育てに関するニーズや意見等」を把握するため、調査を実施しました。

## 2 調査対象

市内にお住まいの0歳から5歳までの就学前のお子さんがおられる家庭と、小学生のお子さんがおられる家庭の中から無作為抽出（市全域）

## 3 調査期間

令和5年11月27日（月）から令和5年12月19日（火）

## 4 調査方法

郵送による配布・郵送またはWEBによる回収

## 5 回収状況

	配布数	有効回答数	有効回答率
就学前児童	1,500通	905通	60.3%
小学生児童	1,500通	916通	61.1%

## 6 調査結果の表示方法

- ・回答は各質問の回答者数（N）を基数とした百分率（%）で示してあります。また、小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が100.0%にならない場合があります。
- ・複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答比率の合計が100.0%を超える場合があります。
- ・クロス集計の場合、無回答を排除しているため、クロス集計の有効回答数の合計と単純集計（全体）の有効回答数が合致しないことがあります。なお、クロス集計とは、複数項目の組み合わせで分類した集計のことで、複数の質問項目を交差して並べ、表やグラフを作成することにより、その相互の関係を明らかにするための集計方法です。
- ・回答者数が1桁の場合、回答件数による表記としています。

## 7 相対的貧困世帯に関する分析の視点

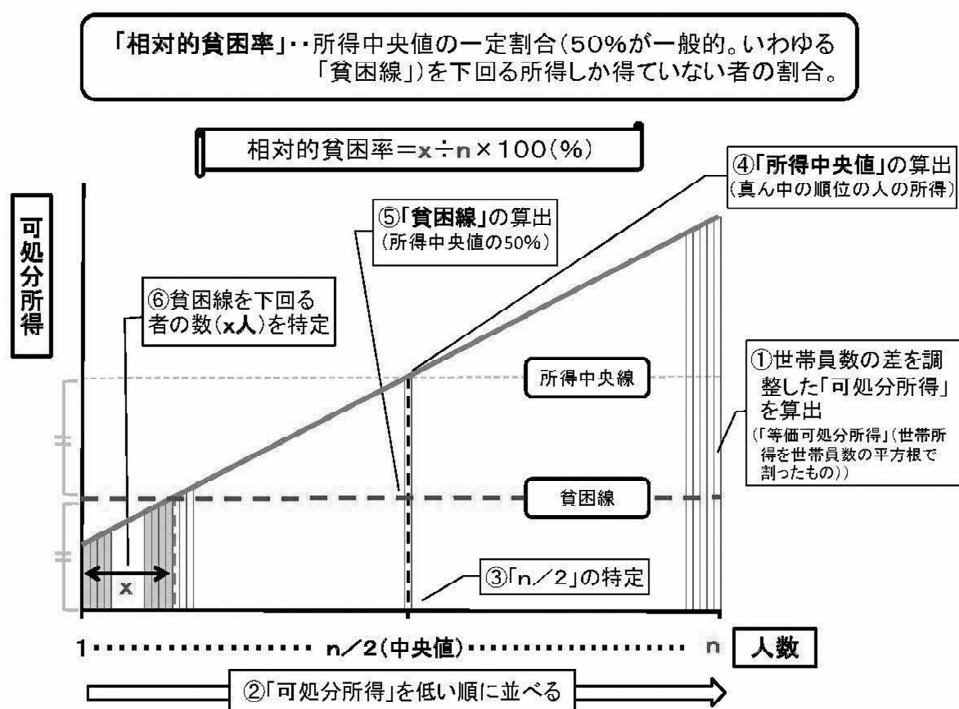
貧困状態かどうかについては、客観的に判断する指標はなく、複数の指標を参考にしながら、便宜的に、ある一定の所得や消費水準を下回った場合に「貧困」とみなしているのが実情です。したがって、本調査において貧困状態かどうかを指し示す諸指標については、一定の幅を持って理解する必要があります。

なお、特定の固定値（絶対的な金額や状況）を貧困線として使用し、その水準を下回った場合を、「絶対的貧困」と呼ぶほか、OECDの統計など、一定の所得や消費水準（時点によって変移する金額や状況）を貧困線とし、それを下回る場合を「相対的貧困」と呼んでいます。

### (1) 本調査における相対的貧困世帯の定義

本調査における相対的貧困世帯とは、国が国民生活基礎調査（厚生労働省）により算出した貧困線に対応する世帯収入を下回る世帯とします。

国が国民生活基礎調査により算出した貧困線とは、等価可処分所得※の中央値の半分の額をいい、OECD（経済協力開発機構）の作成基準に基づき算出しています。



※等価可処分所得…世帯の可処分所得（収入から税金・社会保険料等を除いたいわゆる手取り収入）を世帯人員の平方根で割って調整した所得

本調査においては、保護者を対象とした調査（就学前児童：問13-1、小学生児童：問11-1）で税込みの世帯収入を50万円区分で尋ねています。そこで、国が国民生活基礎調査（厚生労働省）により算出した貧困線に対応する世帯収入を概算したうえで、相対的貧困となる区分を選定しました。

## （２）本調査における相対的貧困世帯数の算出方法

まず、令和3年国民生活基礎調査における所得5分位階級ごとに、平均可処分所得に対する平均所得の比となる係数を算出します。

	1世帯あたり 平均所得※(a)	平均可処分所得※(b)	所得五分位階級 ごとの係数(a/b)
第Ⅰ（～211万）	133.1万円	118.4万円	1.12
第Ⅱ（211万～358万）	284.3万円	246.2万円	1.15
第Ⅲ（358万～546万）	443.6万円	366.7万円	1.21
第Ⅳ（546万～831万）	676.5万円	546.6万円	1.24
第Ⅴ（831万～）	1,284.1万円	989.4万円	1.30

※「1世帯あたり平均所得」は税込みの収入、「平均可処分所得」は手取り収入（可処分所得）に該当する。

次に、令和3年国民生活基礎調査における貧困線（127万円）に世帯人員の平方根を乗じて世帯人員別に相対的貧困線※を算出します。

世帯人員別の相対的貧困線に対応する上記の「所得五分位階級ごとの係数」を乗じることで、相対的貧困線の値に対応する世帯収入を概算し、この世帯収入を下回る世帯を本調査の相対的貧困世帯とします。

世帯人員	相対的 貧困線	係数	対応する 世帯収入	相対的貧困世帯 となる区分	相対的貧困 世帯数
2人	180万円	1.12	202万円	250万円未満	17世帯
3人	220万円	1.12	247万円	250万円未満	26世帯
4人	254万円	1.15	293万円	300万円未満	30世帯
5人	284万円	1.15	328万円	350万円未満	22世帯
6人	311万円	1.15	359万円	400万円未満	8世帯
7人	336万円	1.15	388万円	400万円未満	1世帯
8人	359万円	1.15	415万円	450万円未満	4世帯

※「相対的貧困線」は手取り収入（可処分所得）に基づく基準であり、「対応する世帯収入」は税込みの収入、「相対的貧困世帯となる区分」は本調査で尋ねた世帯全員の税込み収入。

## （３）川西市の相対的貧困率

本調査における川西市の子どもがいる世帯の相対的貧困世帯数および相対的貧困率は5.9%となっており、平成29年度に実施した「子どもの生活に関するアンケート調査」よりも低くなっています。

調査種類	保護者の回収数	相対的貧困世帯数	相対的貧困率
本調査	1,821世帯	108世帯	5.9%
子どもの生活に関する アンケート調査 (平成29年度実施)	2,202世帯	205世帯	9.3%

## Ⅱ 調査結果（就学前児童調査・小学生児童調査）

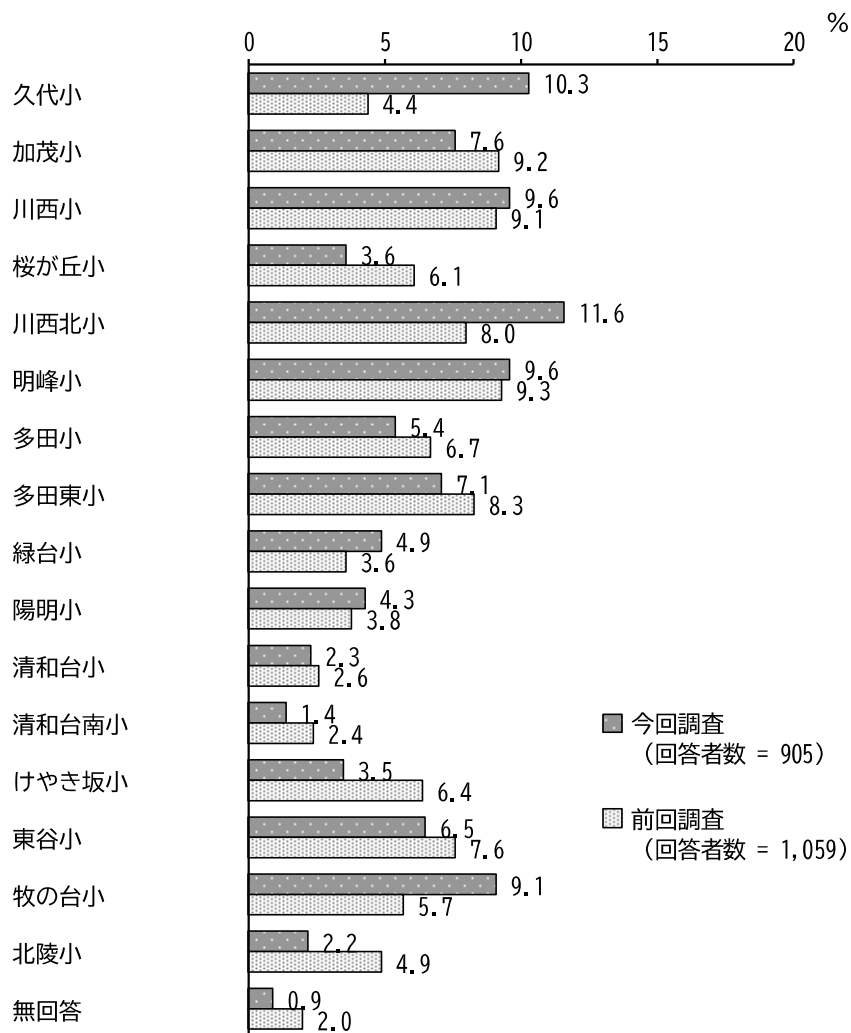
### 1 居住地区について

（1）小学校区〈単数回答〉

【就学前児童：問1-1】【小学生児童：問1-1】

〔就学前児童〕

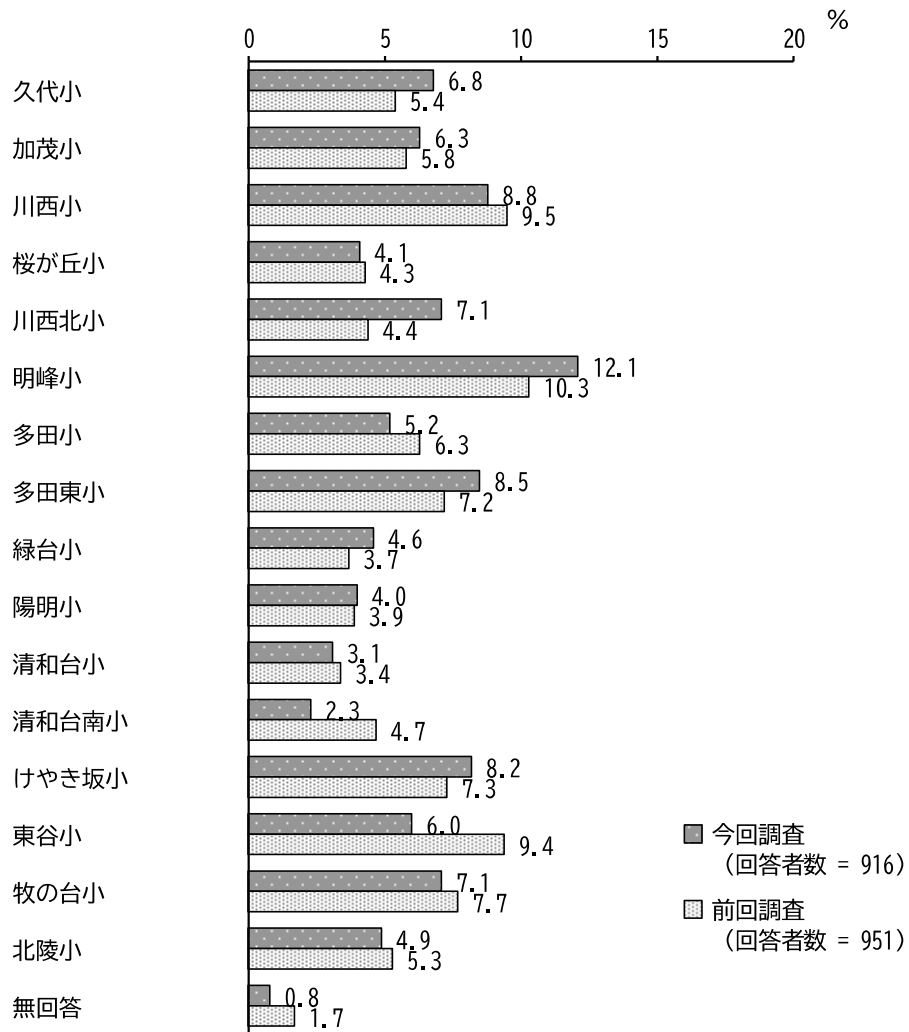
「川西北小」の割合が11.6%と最も高く、次いで「久代小」の割合が10.3%となっています。前回調査と比較すると、「久代小」の割合が大きく増加しています。





〔小学生児童〕

「明峰小」の割合が12.1%と最も高くなっています。  
 前回調査と比較すると、大きな変化はみられません。

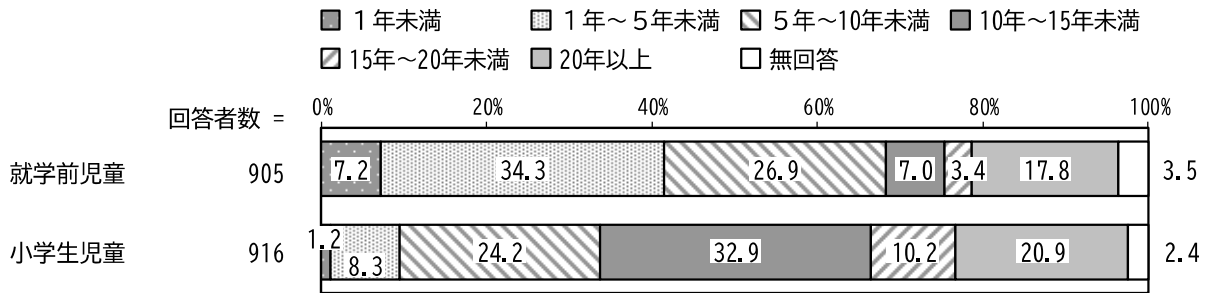


(2) 居住年数〈単数回答〉

【就学前児童：問1-2】【小学生児童：問1-2】

就学前児童では、「1年～5年未満」の割合が34.3%と最も高く、次いで「5年～10年未満」の割合が26.9%、「20年以上」の割合が17.8%となっています。

小学生児童では、「10年～15年未満」の割合が32.9%と最も高く、次いで「5年～10年未満」の割合が24.2%、「20年以上」の割合が20.9%となっています。



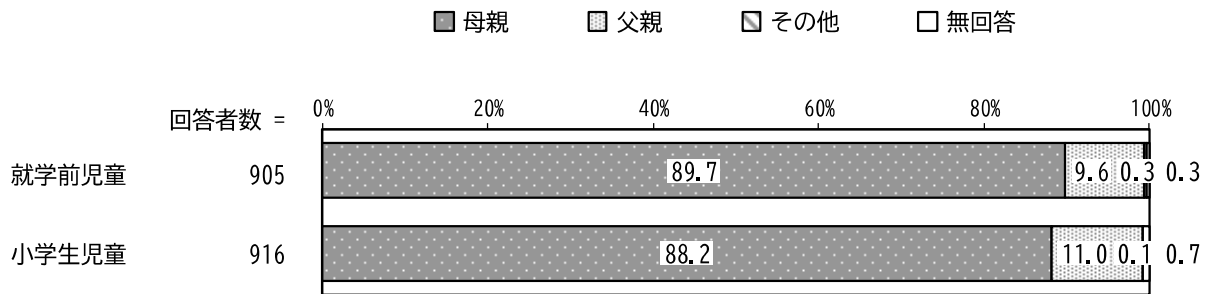
## 2 子どもと家族の状況について

### (1) 調査票の回答者〈単数回答〉

【就学前児童：問2-1】【小学生児童：問2-1】

就学前児童では、「母親」の割合が89.7%、「父親」の割合が9.6%となっています。

小学生児童では、「母親」の割合が88.2%、「父親」の割合が11.0%となっています。

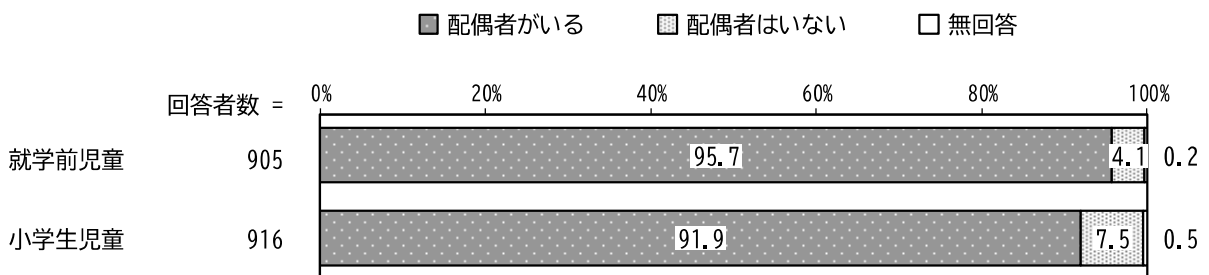


### (2) 調査票の回答者の配偶関係〈単数回答〉

【就学前児童：問2-2】【小学生児童：問2-2】

就学前児童では、「配偶者がいる」の割合が95.7%、「配偶者はいない」の割合が4.1%となっています。

小学生児童では、「配偶者がいる」の割合が91.9%、「配偶者はいない」の割合が7.5%となっています。

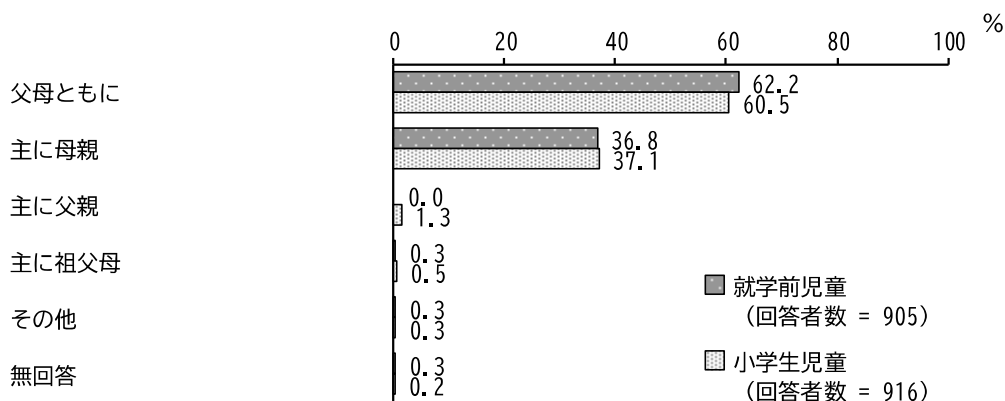


(3) 子育てを主に行っている方〈単数回答〉

【就学前児童：問2-3】【小学生児童：問2-3】

就学前児童では、「父母ともに」の割合が62.2%と最も高く、次いで「主に母親」の割合が36.8%となっています。

小学生児童でも、「父母ともに」の割合が60.5%と最も高く、次いで「主に母親」の割合が37.1%となっています。

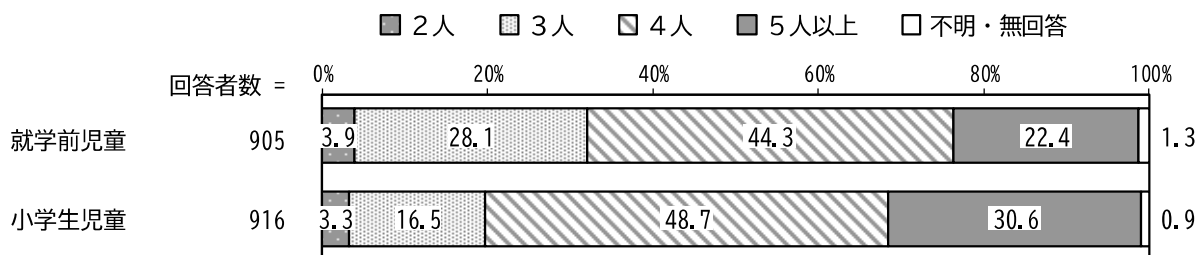


(4) 家族の人数〈数量回答〉

【就学前児童：問2-4(1)】【小学生児童：問2-4(1)】

就学前児童では、「4人」の割合が44.3%と最も高く、次いで「3人」の割合が28.1%、「5人以上」の割合が22.4%となっています。

小学生児童では、「4人」の割合が48.7%と最も高く、次いで「5人以上」の割合が30.6%、「3人」の割合が16.5%となっています。



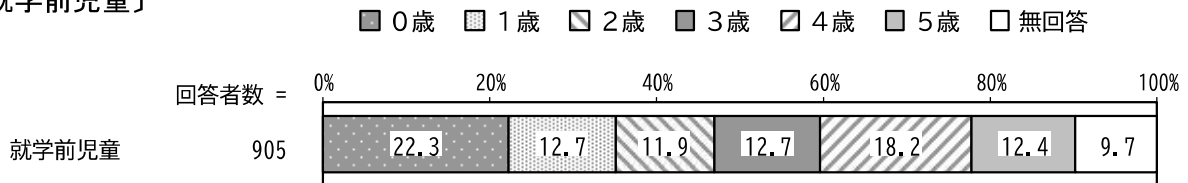
(5) 子どもの年齢・学年〈数量回答〉

【就学前児童：問2-4(2)①】【小学生児童：問2-4(2)①】

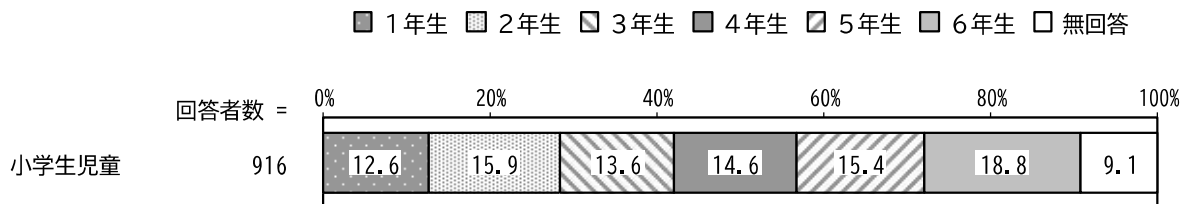
就学前児童では、「0歳」の割合が22.3%と最も高く、次いで「4歳」の割合が18.2%、「1歳」、「3歳」の割合が12.7%となっています。

小学生児童では、「6年生」の割合が18.8%と最も高く、次いで「2年生」の割合が15.9%、「5年生」の割合が15.4%となっています。

〔就学前児童〕



〔小学生児童〕

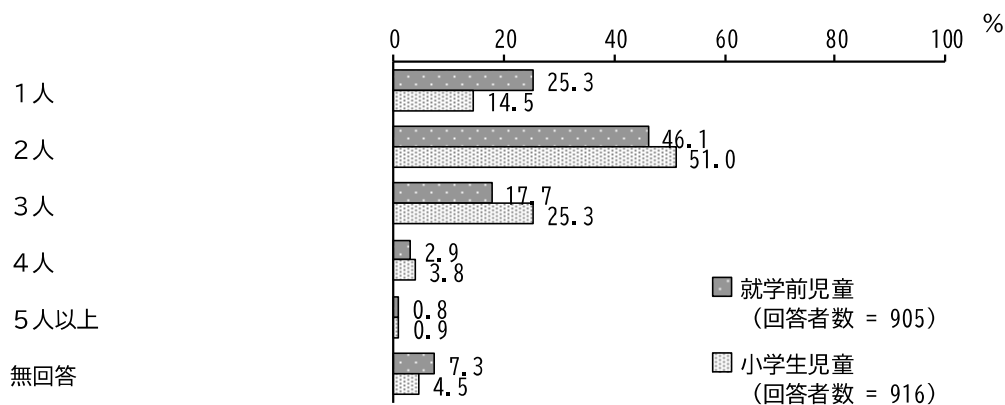


## (6) 子どもの人数〈数量回答〉

【就学前児童：問2-4(2)②】【小学生児童：問2-4(2)②】

就学前児童では、「2人」の割合が46.1%と最も高く、次いで「1人」の割合が25.3%、「3人」の割合が17.7%となっています。

小学生児童では、「2人」の割合が51.0%と最も高く、次いで「3人」の割合が25.3%、「1人」の割合が14.5%となっています。



(6) で子どもの人数が「2人」以上の方のみ

(7) 末子の年齢〈数量回答〉

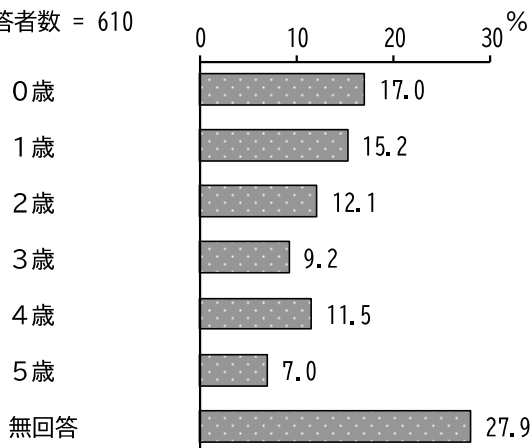
【就学前児童：問2-4(2)②】【小学生児童：問2-4(2)②】

就学前児童では、「0歳」の割合が17.0%と最も高く、次いで「1歳」の割合が15.2%、「2歳」の割合が12.1%となっています。

小学生児童では、「7歳」の割合が12.4%と最も高く、次いで「8歳」の割合が12.0%となっています。

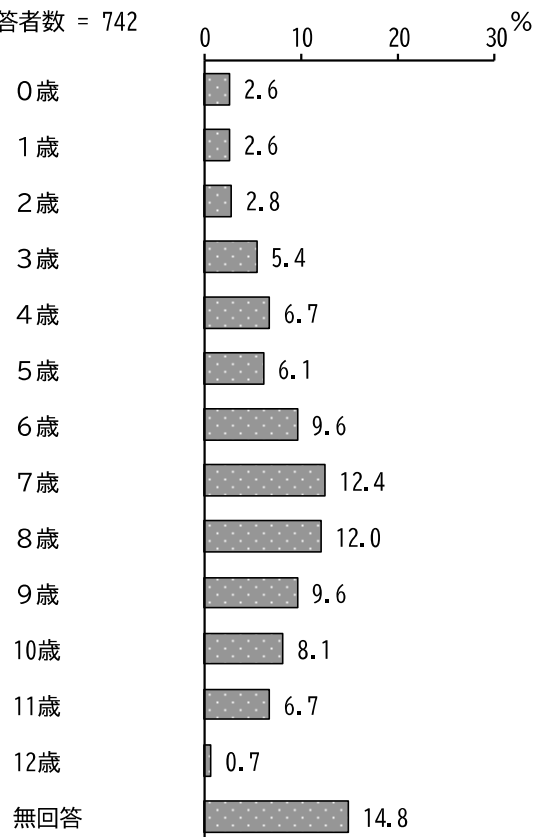
〔就学前児童〕

回答者数 = 610



〔小学生児童〕

回答者数 = 742



### 3 子どもの育ちをめぐる環境について

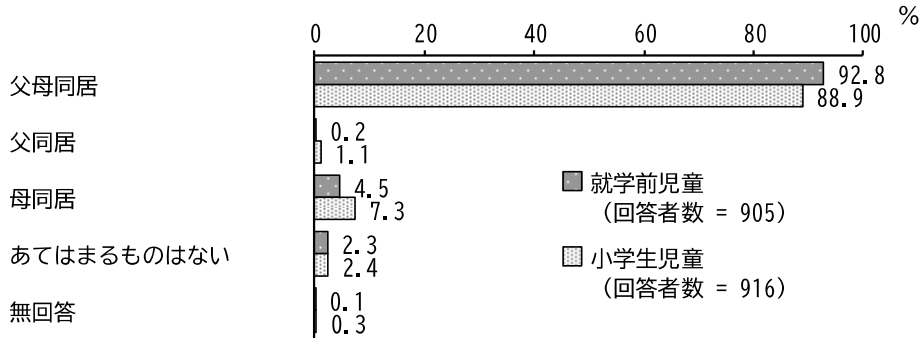
#### (1) 同居・近居の状況〈単数回答〉

【就学前児童：問3-1】【小学生児童：問3-1】

##### ①父・母について

就学前児童では、「父母同居」の割合が92.8%と最も高くなっています。

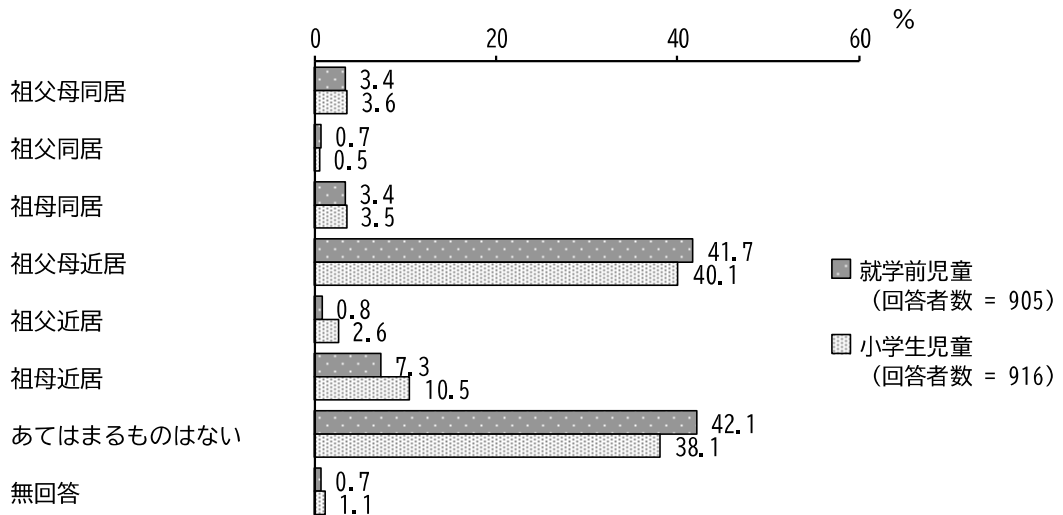
小学生児童でも、「父母同居」の割合が88.9%と最も高くなっています。



##### ②祖父・祖母について

就学前児童では、「あてはまるものはない」の割合が42.1%と最も高く、次いで「祖父母近居」の割合が41.7%となっています。

小学生児童では、「祖父母近居」の割合が40.1%と最も高く、次いで「あてはまるものはない」の割合が38.1%、「祖母近居」の割合が10.5%となっています。





(2) 子どもを親族等に預かってもらっている状況〈単数回答〉

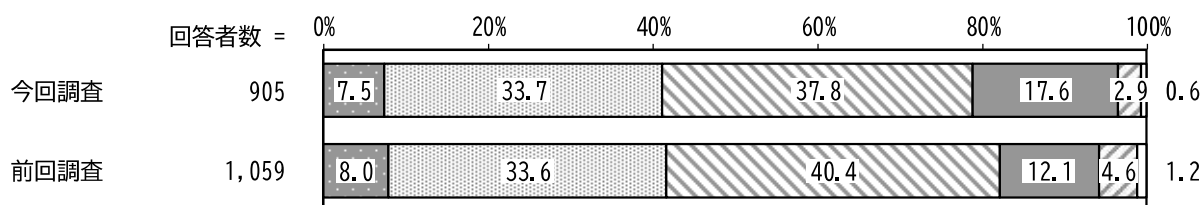
【就学前児童：問3-2】【小学生児童：問3-2】

就学前児童では、「特に必要な際には預かってもらえる」の割合が37.8%と最も高く、次いで「用事の際には預かってもらえる」の割合が33.7%、「預かってもらえる親族はいない」の割合が17.6%となっています。

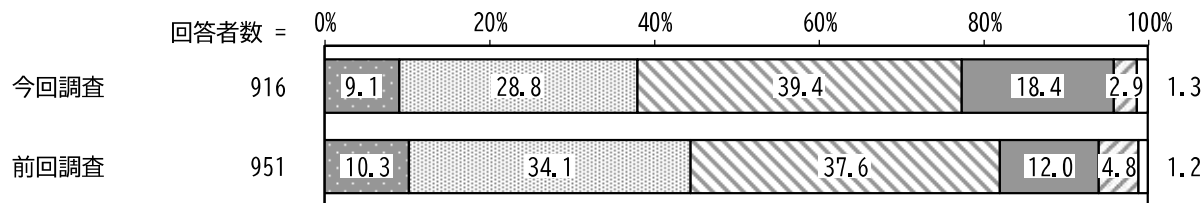
小学生児童では、「特に必要な際には預かってもらえる」の割合が39.4%と最も高く、次いで「用事の際には預かってもらえる」の割合が28.8%、「預かってもらえる親族はいない」の割合が18.4%となっています。

- 日常的に親族等に預かってもらえる
- ▨ 用事の際には預かってもらえる
- ▩ 特に必要な際には預かってもらえる
- 預かってもらえる親族はいない
- その他
- 無回答

〔就学前児童〕



〔小学生児童〕



〔年齢別〕 就学前児童

年齢別にみると、0歳、1歳、3歳で「特に必要な際には預かってもらえる」の割合が高くなっています。また、2歳で「用事の際には預かってもらえる」の割合が高くなっています。

区分	0歳児		1歳児		2歳児		3歳児		4歳児		5歳児	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
日常的に親族等に預かってもらえる	12	5.9	8	7.0	11	10.2	8	7.0	14	8.5	7	6.3
用事の際には預かってもらえる	72	35.6	31	27.0	47	43.5	38	33.0	63	38.2	31	27.7
特に必要な際には預かってもらえる	77	38.1	50	43.5	34	31.5	44	38.3	54	32.7	49	43.8
預かってもらえる親族はいない	33	16.3	24	20.9	14	13.0	21	18.3	29	17.6	19	17.0
その他	8	4.0	2	1.7	1	0.9	3	2.6	4	2.4	6	5.4
無回答	—	—	—	—	1	0.9	1	0.9	1	0.6	—	—

〔学年別〕 小学生児童

学年別にみると、1年生、5年生で「特に必要な際には預かってもらえる」の割合が高くなっています。一方、6年生で「用事の際には預かってもらえる」の割合が高くなっています。

区分	1年生		2年生		3年生		4年生		5年生		6年生	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
日常的に祖父母等に預かってもらえる	11	9.6	14	9.6	11	8.8	10	7.5	11	7.8	19	11.0
用事の際には預かってもらえる	35	30.4	47	32.2	34	27.2	33	24.6	33	23.4	59	34.3
特に必要な際には預かってもらえる	52	45.2	53	36.3	46	36.8	53	39.6	62	44.0	58	33.7
預かってもらえる親族はいない	14	12.2	25	17.1	30	24.0	29	21.6	28	19.9	32	18.6
その他	3	2.6	3	2.1	2	1.6	8	6.0	4	2.8	4	2.3
無回答	—	—	4	2.7	2	1.6	1	0.7	3	2.1	—	—

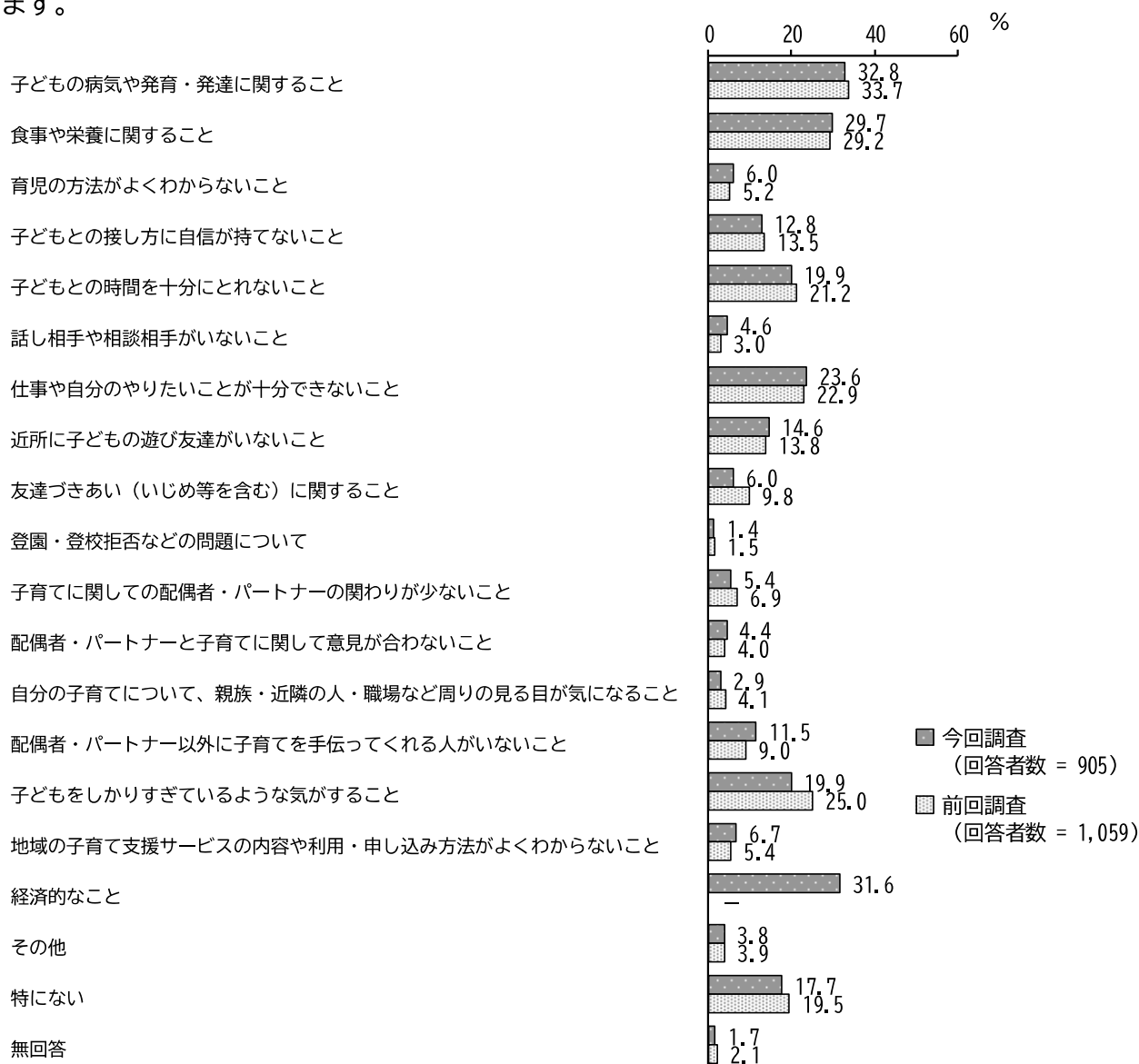
### (3) 子育てについて日ごろ悩んでいること〈複数回答〉

【就学前児童：問3-3】【小学生児童：問3-3】

#### 〔就学前児童〕

就学前児童では、「子どもの病気や発育・発達に関すること」の割合が32.8%と最も高く、次いで「経済的なこと」の割合が31.6%、「食事や栄養に関すること」の割合が29.7%となっています。

前回調査と比較すると、「子どもをしかりすぎているような気がすること」の割合が減少しています。

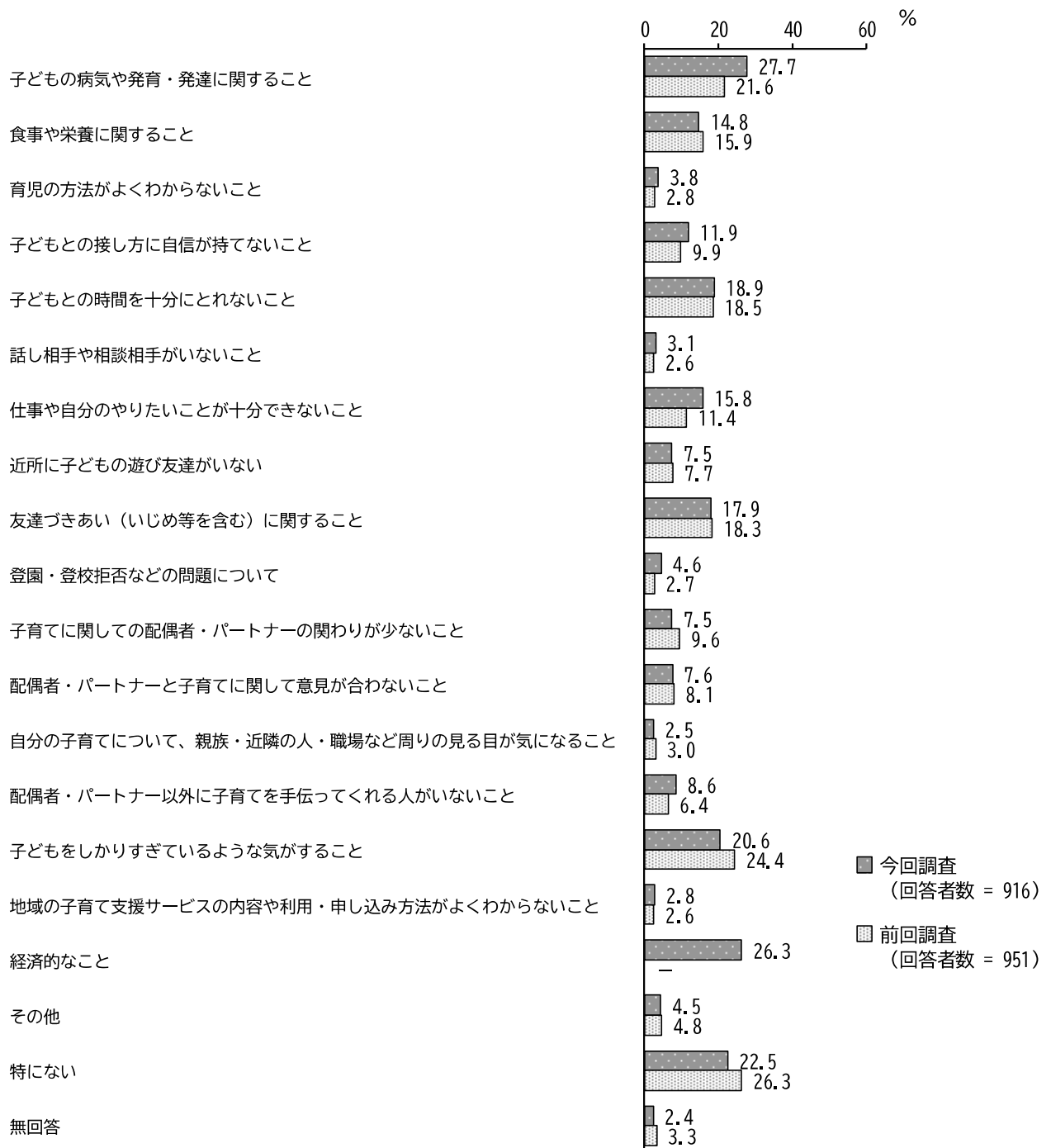


※前回調査の結果が「-」となっている選択肢は、今回調査で新たに追加された選択肢です。

〔小学生児童〕

小学生児童では、「子どもの病気や発育・発達に関すること」の割合が27.7%と最も高く、次いで「経済的なこと」の割合が26.3%、「特にない」の割合が22.5%となっています。

前回調査と比較すると、「子どもの病気や発育・発達に関すること」の割合が増加しています。



※前回調査の結果が「—」となっている選択肢は、今回調査で新たに追加された選択肢です。

〔年齢別〕 就学前児童

年齢別にみると、年齢が低くなるにつれ「食事や栄養に関すること」の割合が、年齢が高くなるにつれ「子どもとの時間を十分にとれないこと」の割合が高くなる傾向がみられます。また、3歳で「子どもの病気や発育・発達に関すること」の割合が、3歳以上で「子どもをしかりすぎているような気がする」との割合が高くなっています。

区分	0歳児		1歳児		2歳児		3歳児		4歳児		5歳児	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
子どもの病気や発育・発達に関すること	83	41.1	35	30.4	23	21.3	52	45.2	52	31.5	26	23.2
食事や栄養に関すること	77	38.1	38	33.0	34	31.5	34	29.6	30	18.2	31	27.7
育児の方法がよくわからないこと	13	6.4	14	12.2	4	3.7	4	3.5	8	4.8	6	5.4
子どもとの接し方に自信が持てないこと	26	12.9	19	16.5	8	7.4	11	9.6	29	17.6	14	12.5
子どもとの時間を十分にとれないこと	27	13.4	22	19.1	24	22.2	25	21.7	39	23.6	31	27.7
話し相手や相談相手がないこと	4	2.0	5	4.3	6	5.6	3	2.6	8	4.8	9	8.0
仕事や自分のやりたいことが十分できないこと	48	23.8	28	24.3	26	24.1	28	24.3	31	18.8	29	25.9
近所に子どもの遊び友達がいない	27	13.4	18	15.7	13	12.0	16	13.9	29	17.6	11	9.8
友達づきあい（いじめ等を含む）に関すること	9	4.5	6	5.2	2	1.9	8	7.0	14	8.5	6	5.4
登園・登校拒否などの問題について	1	0.5	2	1.7	—	—	—	—	4	2.4	1	0.9
子育てに関しての配偶者・パートナーの関わりが少ないこと	8	4.0	6	5.2	7	6.5	9	7.8	9	5.5	5	4.5
配偶者・パートナーと子育てに関して意見が合わないこと	7	3.5	6	5.2	6	5.6	5	4.3	8	4.8	5	4.5
自分の子育てについて、親族・近隣の人・職場など周りの見る目が気になること	7	3.5	5	4.3	2	1.9	4	3.5	4	2.4	3	2.7
配偶者・パートナー以外に子育てを手伝ってくれる人がいないこと	17	8.4	16	13.9	9	8.3	15	13.0	19	11.5	14	12.5
子どもをしかりすぎているような気がする	26	12.9	18	15.7	17	15.7	33	28.7	43	26.1	27	24.1
地域の子育て支援サービスの内容や利用・申し込み方法がよくわからないこと	19	9.4	5	4.3	15	13.9	4	3.5	6	3.6	6	5.4
経済的なこと	57	28.2	30	26.1	36	33.3	40	34.8	48	29.1	35	31.3
その他	6	3.0	6	5.2	8	7.4	3	2.6	4	2.4	5	4.5
特になし	34	16.8	20	17.4	23	21.3	15	13.0	34	20.6	19	17.0
無回答	5	2.5	3	2.6	1	0.9	1	0.9	1	0.6	2	1.8

〔学年別〕小学生児童

学年別にみると、1年生で「食事や栄養に関すること」の割合が高くなっています。また、4年生以上で「配偶者・パートナーと子育てに関して意見が合わないこと」の割合が、1年生、2年生、3年生で「子どもをしかりすぎているような気がする」との割合が高くなっています。

区分	1年生		2年生		3年生		4年生		5年生		6年生	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
子どもの病気や発育・発達に関すること	39	33.9	40	27.4	42	33.6	44	32.8	35	24.8	37	21.5
食事や栄養に関すること	29	25.2	19	13.0	12	9.6	21	15.7	19	13.5	21	12.2
育児の方法がよくわからないこと	6	5.2	5	3.4	7	5.6	7	5.2	4	2.8	5	2.9
子どもとの接し方に自信が持てないこと	16	13.9	22	15.1	18	14.4	13	9.7	19	13.5	15	8.7
子どもとの時間を十分にとれないこと	22	19.1	29	19.9	28	22.4	28	20.9	27	19.1	27	15.7
話し相手や相談相手がいないこと	5	4.3	1	0.7	3	2.4	4	3.0	5	3.5	6	3.5
仕事や自分のやりたいことが十分できないこと	22	19.1	23	15.8	18	14.4	18	13.4	19	13.5	26	15.1
近所に子どもの遊び友達がいない	11	9.6	19	13.0	3	2.4	15	11.2	6	4.3	7	4.1
友達づきあい（いじめ等を含む）に関すること	19	16.5	23	15.8	20	16.0	27	20.1	27	19.1	34	19.8
登園・登校拒否などの問題について	2	1.7	4	2.7	9	7.2	3	2.2	9	6.4	12	7.0
子育てに関しての配偶者・パートナーの関わりが少ないこと	7	6.1	13	8.9	8	6.4	14	10.4	10	7.1	11	6.4
配偶者・パートナーと子育てに関して意見が合わないこと	3	2.6	8	5.5	5	4.0	16	11.9	18	12.8	14	8.1
自分の子育てについて、親族・近隣の人・職場など周りの見る目が気になること	1	0.9	4	2.7	2	1.6	6	4.5	2	1.4	8	4.7
配偶者・パートナー以外に子育てを手伝ってくれる人がいないこと	12	10.4	13	8.9	10	8.0	17	12.7	10	7.1	12	7.0
子どもをしかりすぎているような気がする	29	25.2	36	24.7	37	29.6	24	17.9	24	17.0	26	15.1
地域の子育て支援サービスの内容や利用・申し込み方法がよくわからないこと	4	3.5	5	3.4	4	3.2	3	2.2	3	2.1	2	1.2
経済的なこと	26	22.6	45	30.8	28	22.4	31	23.1	42	29.8	47	27.3
その他	3	2.6	11	7.5	4	3.2	4	3.0	5	3.5	9	5.2
特にない	22	19.1	28	19.2	32	25.6	30	22.4	32	22.7	45	26.2
無回答	3	2.6	3	2.1	3	2.4	4	3.0	4	2.8	1	0.6

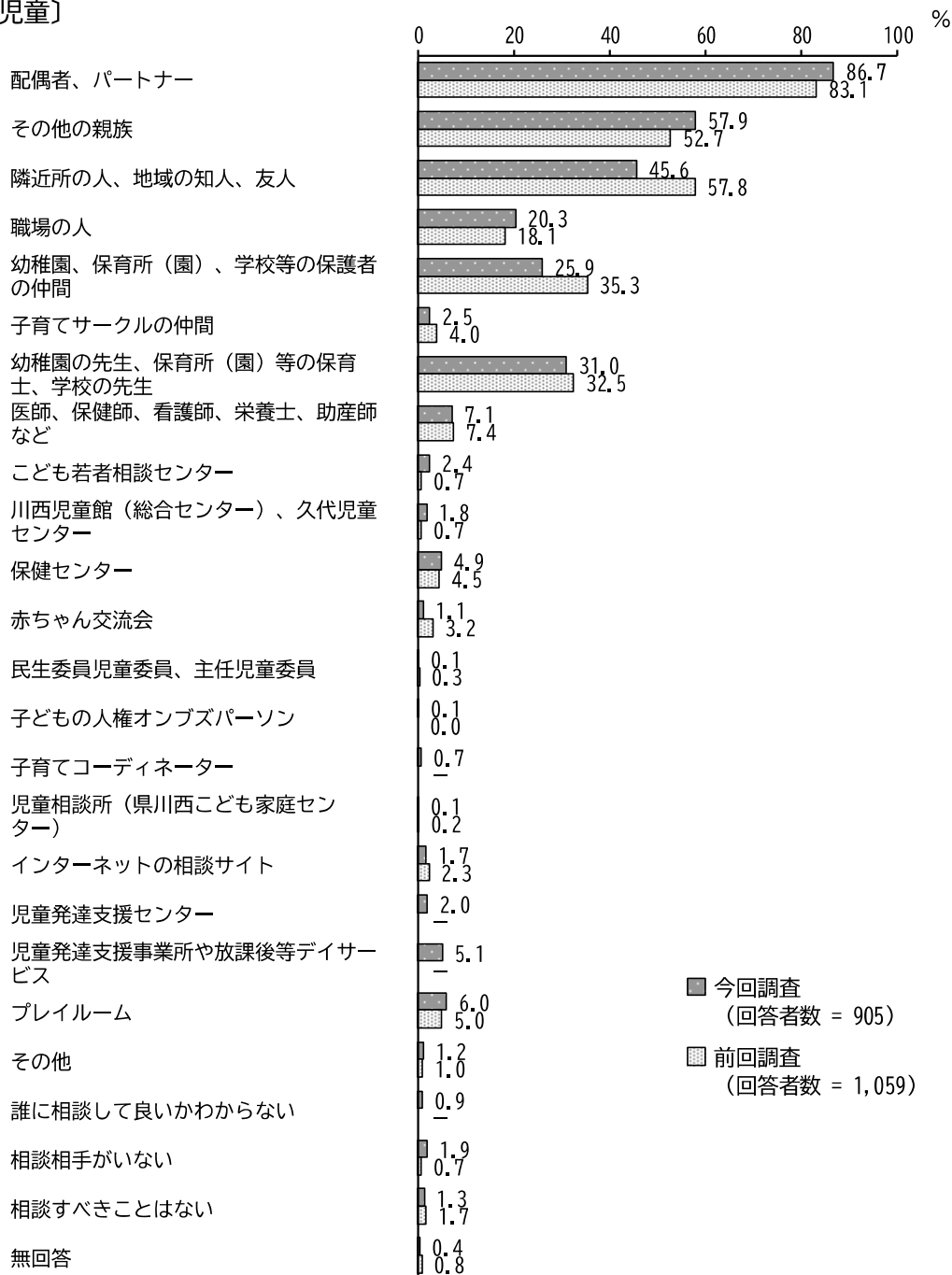
(4) 子育てに関する悩みや不安などの相談先〈複数回答〉

【就学前児童：問3-4】【小学生児童：問3-4】

就学前児童では、「配偶者、パートナー」の割合が86.7%と最も高く、次いで「その他の親族」の割合が57.9%、「隣近所の人、地域の知人、友人」の割合が45.6%となっています。

前回調査と比較すると、「隣近所の人、地域の知人、友人」「幼稚園、保育所（園）、学校等の保護者の仲間」の割合が減少しています。

〔就学前児童〕

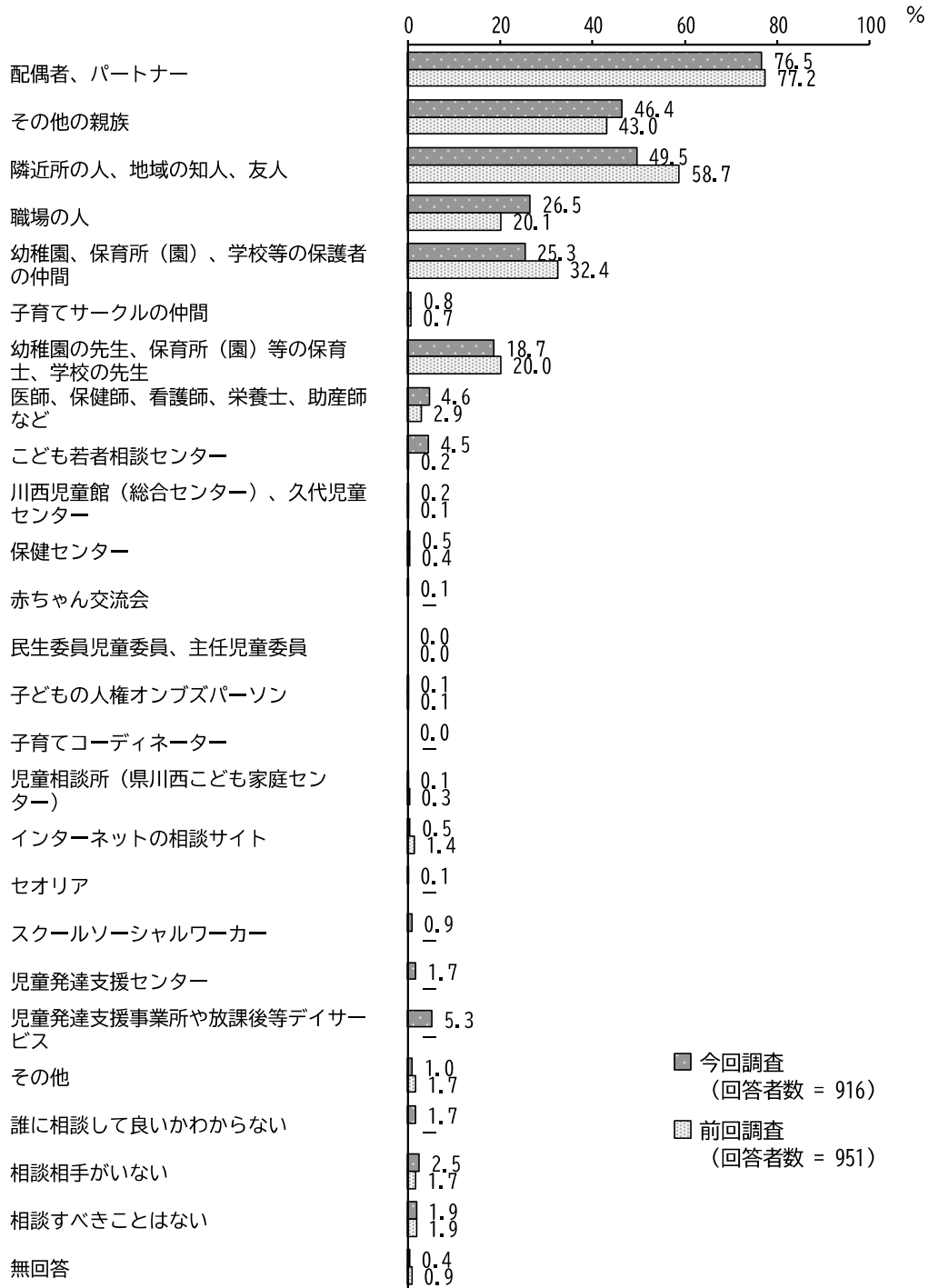


※前回調査の結果が「—」となっている選択肢は、今回調査で新たに追加された選択肢です。

〔小学生児童〕

小学生児童では、「配偶者、パートナー」の割合が76.5%と最も高く、次いで「隣近所の人、地域の知人、友人」の割合が49.5%、「その他の親族」の割合が46.4%となっています。

前回調査と比較すると、「職場の人」の割合が増加しています。一方、「隣近所の人、地域の知人、友人」「幼稚園、保育所（園）、学校等の保護者の仲間」の割合が減少しています。



※前回調査の結果が「-」となっている選択肢は、今回調査で新たに追加された選択肢です。



〔年齢別〕 就学前児童

年齢別にみると、4歳以下で年齢が高くなるにつれ「幼稚園の先生、保育所（園）等の保育士、学校の先生」の割合が高くなる傾向がみられます。また、2歳以上で「職場の人」の割合が、3歳、4歳で「幼稚園の先生、保育所（園）等の保育士、学校の先生」の割合が高くなっています。

区分	0歳児		1歳児		2歳児		3歳児		4歳児		5歳児	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
配偶者、パートナー	179	88.6	103	89.6	97	89.8	100	87.0	148	89.7	89	79.5
その他の親族	130	64.4	72	62.6	65	60.2	58	50.4	99	60.0	54	48.2
隣近所の人、地域の知人、友人	97	48.0	55	47.8	39	36.1	54	47.0	77	46.7	51	45.5
職場の人	30	14.9	13	11.3	25	23.1	25	21.7	40	24.2	29	25.9
幼稚園、保育所（園）、学校等の保護者の仲間	26	12.9	17	14.8	29	26.9	37	32.2	62	37.6	37	33.0
子育てサークルの仲間	10	5.0	1	0.9	3	2.8	3	2.6	2	1.2	1	0.9
幼稚園の先生、保育所（園）等の保育士、学校の先生	35	17.3	38	33.0	35	32.4	45	39.1	69	41.8	38	33.9
医師、保健師、看護師、栄養士、助産師など	22	10.9	6	5.2	7	6.5	8	7.0	11	6.7	4	3.6
こども若者相談センター	8	4.0	3	2.6	2	1.9	2	1.7	2	1.2	2	1.8
川西児童館（総合センター）、久代児童センター	3	1.5	3	2.6	2	1.9	2	1.7	4	2.4	1	0.9
保健センター	15	7.4	7	6.1	4	3.7	4	3.5	7	4.2	2	1.8
赤ちゃん交流会	7	3.5	1	0.9	—	—	1	0.9	—	—	—	—
民生委員児童委員、主任児童委員	—	—	—	—	—	—	1	0.9	—	—	—	—
子どもの人権オンブズパーソン	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	0.9
子育てコーディネーター	4	2.0	1	0.9	1	0.9	—	—	—	—	—	—
児童相談所（県川西こども家庭センター）	—	—	—	—	—	—	—	—	1	0.6	—	—
インターネットの相談サイト	6	3.0	3	2.6	2	1.9	1	0.9	—	—	1	0.9
児童発達支援センター	1	0.5	2	1.7	3	2.8	2	1.7	4	2.4	3	2.7
児童発達支援事業所や放課後等デイサービス	3	1.5	1	0.9	6	5.6	12	10.4	12	7.3	7	6.3
プレイルーム	26	12.9	12	10.4	9	8.3	1	0.9	3	1.8	1	0.9
その他	3	1.5	4	3.5	1	0.9	1	0.9	—	—	1	0.9
誰に相談して良いかわからない	2	1.0	1	0.9	1	0.9	—	—	1	0.6	2	1.8
相談相手がいない	1	0.5	5	4.3	1	0.9	3	2.6	3	1.8	2	1.8
相談すべきことはない	5	2.5	—	—	1	0.9	2	1.7	1	0.6	2	1.8
無回答	1	0.5	1	0.9	—	—	—	—	—	—	1	0.9

〔学年別〕小学生児童

学年別にみると、学年が低くなるにつれ「幼稚園の先生、保育所（園）等の保育士、学校の先生」の割合が高くなる傾向がみられます。また、2年生で「職場の人」の割合が、3年生以下で「配偶者、パートナー」の割合が高くなっています。

区分	1年生		2年生		3年生		4年生		5年生		6年生	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
配偶者、パートナー	94	81.7	121	82.9	109	87.2	92	68.7	103	73.0	129	75.0
その他の親族	61	53.0	64	43.8	60	48.0	57	42.5	61	43.3	83	48.3
隣近所の人、地域の知人、友人	50	43.5	74	50.7	66	52.8	73	54.5	61	43.3	90	52.3
職場の人	23	20.0	51	34.9	34	27.2	33	24.6	39	27.7	49	28.5
幼稚園、保育所（園）、学校等の保護者の仲間	38	33.0	39	26.7	34	27.2	26	19.4	39	27.7	35	20.3
子育てサークルの仲間	1	0.9	3	2.1	-	-	1	0.7	-	-	1	0.6
幼稚園の先生、保育所（園）等の保育士、学校の先生	32	27.8	32	21.9	26	20.8	21	15.7	27	19.1	22	12.8
医師、保健師、看護師、栄養士、助産師など	6	5.2	7	4.8	7	5.6	5	3.7	8	5.7	6	3.5
こども若者相談センター	4	3.5	7	4.8	6	4.8	4	3.0	10	7.1	9	5.2
川西児童館（総合センター）、久代児童センター	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	0.6
保健センター	1	0.9	2	1.4	-	-	-	-	-	-	2	1.2
赤ちゃん交流会	-	-	1	0.7	-	-	-	-	-	-	-	-
民生委員児童委員、主任児童委員	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
子どもの人権オンブズパーソン	-	-	-	-	1	0.8	-	-	-	-	-	-
子育てコーディネーター	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
児童相談所（県川西こども家庭センター）	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	0.6
インターネットの相談サイト	-	-	2	1.4	1	0.8	1	0.7	1	0.7	-	-
セオリア	-	-	-	-	-	-	-	-	1	0.7	-	-
スクールソーシャルワーカー	-	-	1	0.7	1	0.8	1	0.7	1	0.7	3	1.7
児童発達支援センター	3	2.6	3	2.1	-	-	1	0.7	1	0.7	7	4.1
児童発達支援事業所や放課後等デイサービス	7	6.1	9	6.2	10	8.0	7	5.2	8	5.7	4	2.3
その他	1	0.9	-	-	1	0.8	4	3.0	-	-	3	1.7
誰に相談して良いかわからない	4	3.5	1	0.7	2	1.6	2	1.5	1	0.7	1	0.6
相談相手がいない	-	-	2	1.4	3	2.4	2	1.5	8	5.7	5	2.9
相談すべきことはない	4	3.5	2	1.4	1	0.8	4	3.0	2	1.4	3	1.7
無回答	-	-	1	0.7	-	-	-	-	1	0.7	-	-

(5) 家族親族以外で付き合いのできる人の有無〈複数回答〉

【就学前児童：問3-5】【小学生児童：問3-5】

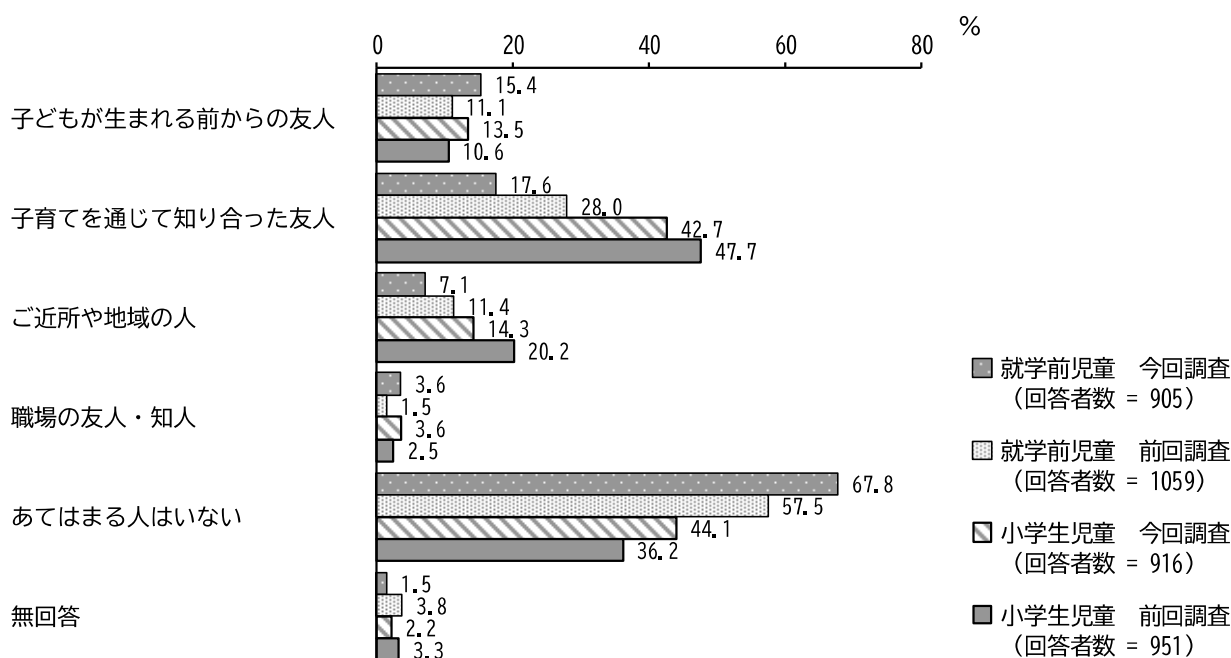
①子どもを預け合える

就学前児童では、「あてはまる人はいない」の割合が67.8%と最も高く、次いで「子育てを通じて知り合った友人」の割合が17.6%、「子どもが生まれる前からの友人」の割合が15.4%となっています。

前回調査と比較すると、「あてはまる人はいない」の割合が増加しています。一方、「子育てを通じて知り合った友人」の割合が減少しています。

小学生児童では、「あてはまる人はいない」の割合が44.1%と最も高く、次いで「子育てを通じて知り合った友人」の割合が42.7%、「ご近所や地域の人」の割合が14.3%となっています。

前回調査と比較すると、「あてはまる人はいない」の割合が増加しています。一方、「ご近所や地域の人」の割合が減少しています。



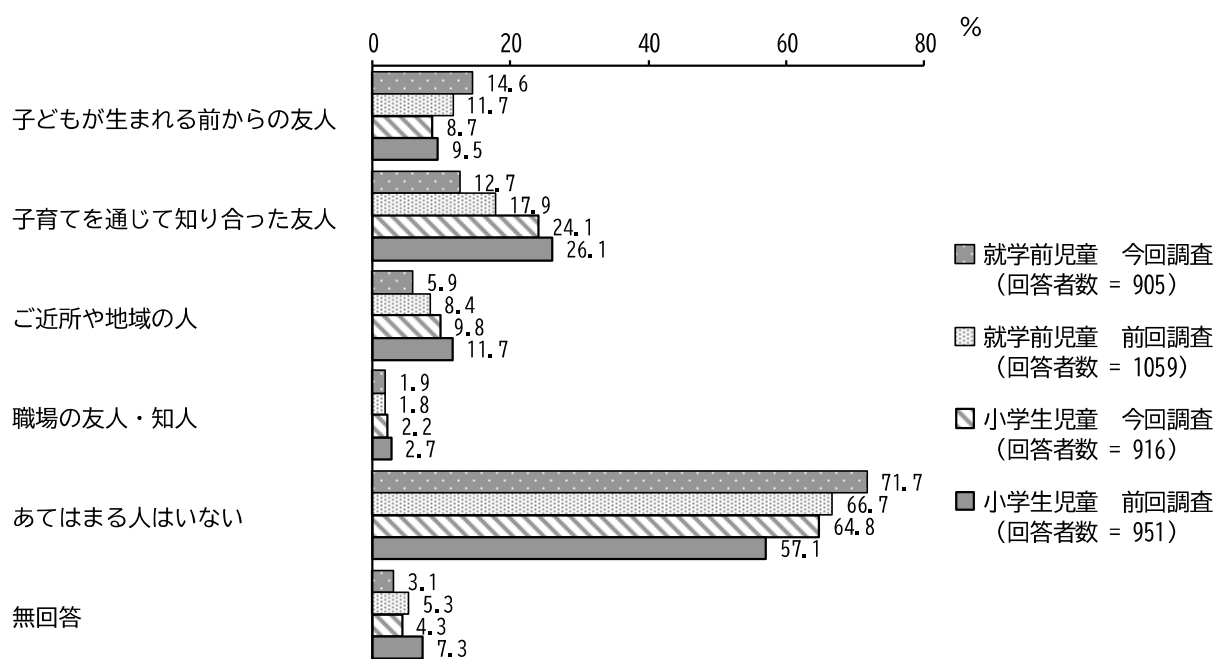
## ②家事・育児のサポートができる

就学前児童では、「あてはまる人はいない」の割合が71.7%と最も高く、次いで「子どもが生まれる前からの友人」の割合が14.6%、「子育てを通じて知り合った友人」の割合が12.7%となっています。

前回調査と比較すると、「子育てを通じて知り合った友人」の割合が減少しています。

小学生児童では、「あてはまる人はいない」の割合が64.8%と最も高く、次いで「子育てを通じて知り合った友人」の割合が24.1%となっています。

前回調査と比較すると、「あてはまる人はいない」の割合が増加しています。



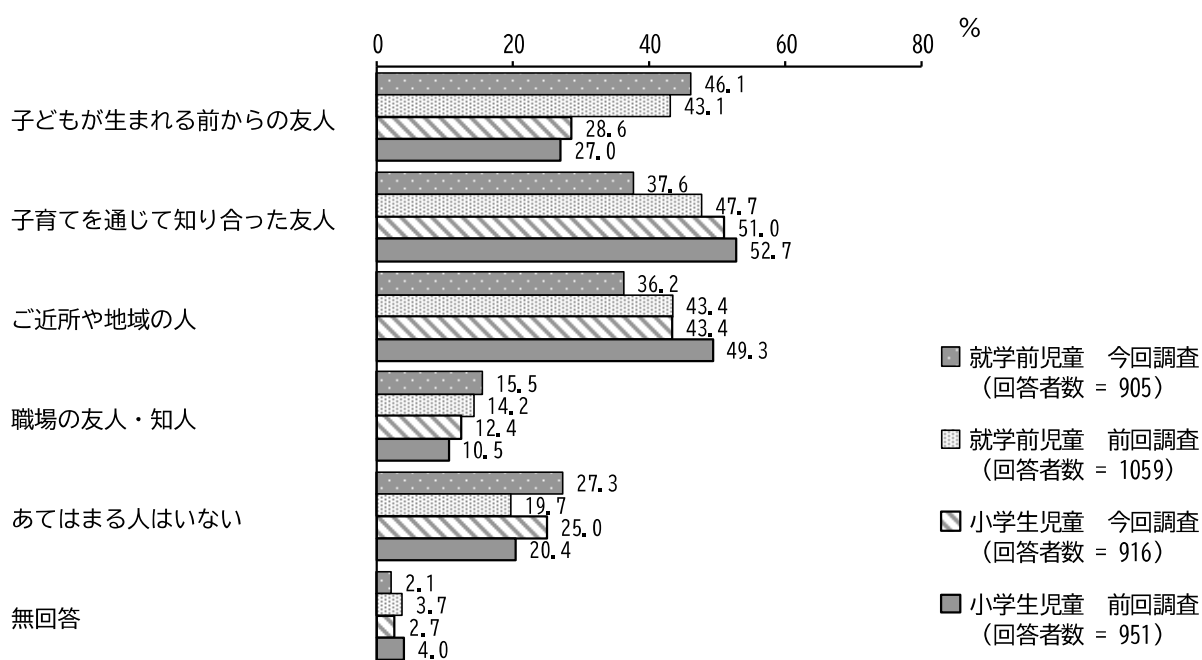
### ③子どもの成長を見守ってくれる

就学前児童では、「子どもが生まれる前からの友人」の割合が46.1%と最も高く、次いで「子育てを通じて知り合った友人」の割合が37.6%、「ご近所や地域の人」の割合が36.2%となっています。

前回調査と比較すると、「あてはまる人はいない」の割合が増加しています。一方、「子育てを通じて知り合った友人」「ご近所や地域の人」の割合が減少しています。

小学生児童では、「子育てを通じて知り合った友人」の割合が51.0%と最も高く、次いで「ご近所や地域の人」の割合が43.4%、「子どもが生まれる前からの友人」の割合が28.6%となっています。

前回調査と比較すると、「ご近所や地域の人」の割合が減少しています。



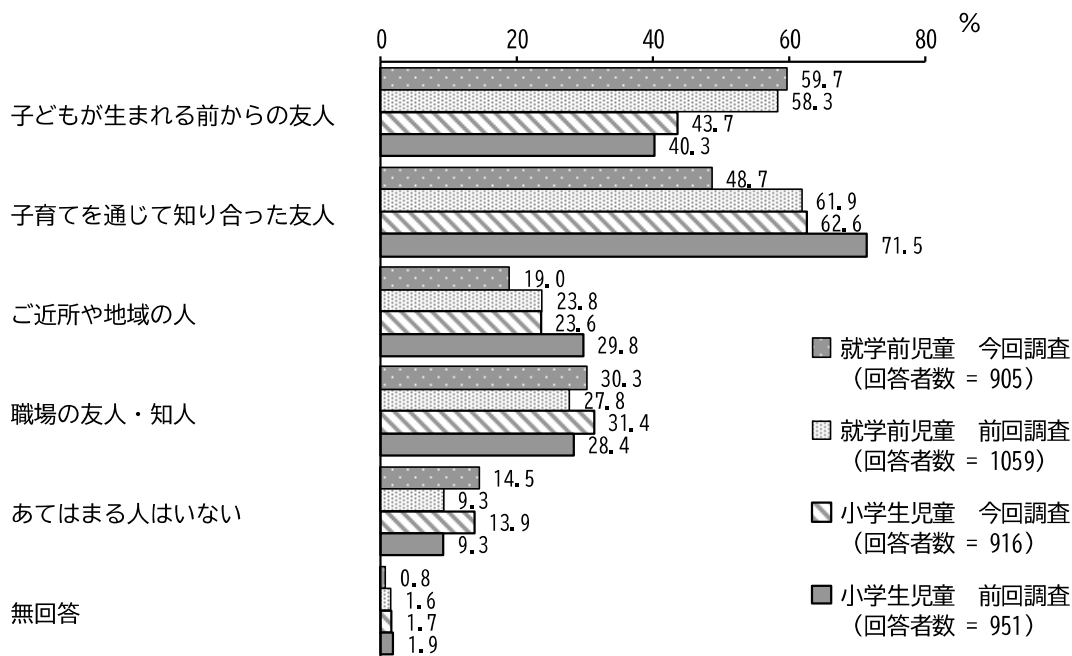
#### ④子育ての相談ができる

就学前児童では、「子どもが生まれる前からの友人」の割合が59.7%と最も高く、次いで「子育てを通じて知り合った友人」の割合が48.7%、「職場の友人・知人」の割合が30.3%となっています。

前回調査と比較すると、「あてはまる人はいない」の割合が増加しています。一方、「子育てを通じて知り合った友人」の割合が減少しています。

小学生児童では、「子育てを通じて知り合った友人」の割合が62.6%と最も高く、次いで「子どもが生まれる前からの友人」の割合が43.7%、「職場の友人・知人」の割合が31.4%となっています。

前回調査と比較すると、「子育てを通じて知り合った友人」「ご近所や地域の人」の割合が減少しています。



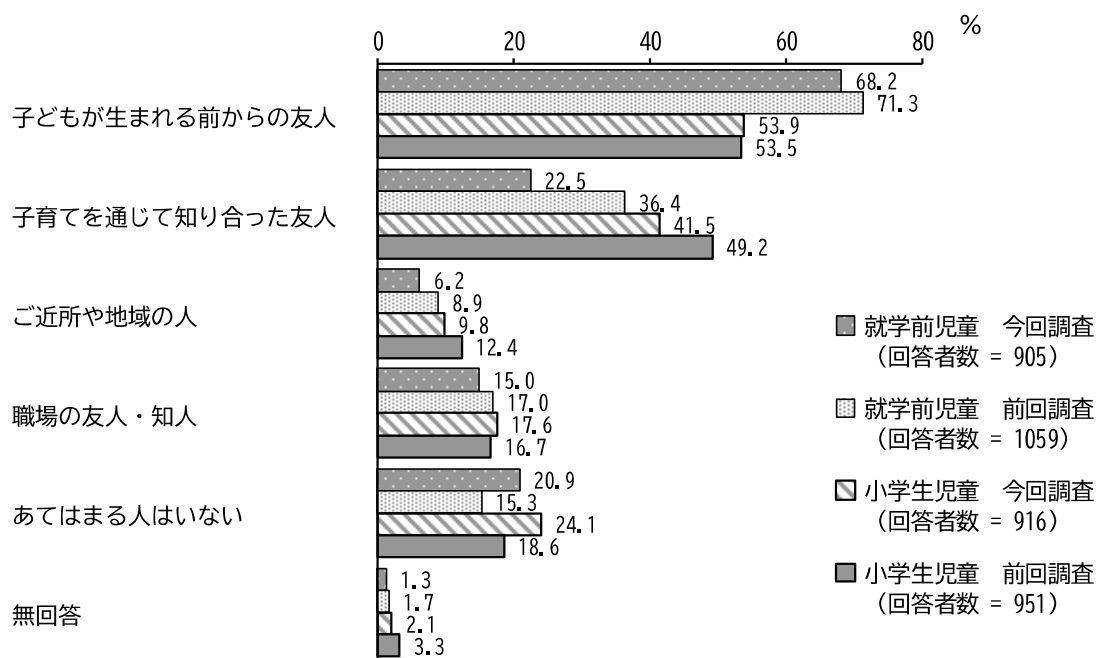
### ⑤本音で話し合える

就学前児童では、「子どもが生まれる前からの友人」の割合が68.2%と最も高く、次いで「子育てを通じて知り合った友人」の割合が22.5%、「あてはまる人はいない」の割合が20.9%となっています。

前回調査と比較すると、「あてはまる人はいない」の割合が増加しています。一方、「子育てを通じて知り合った友人」の割合が減少しています。

小学生児童では、「子どもが生まれる前からの友人」の割合が53.9%と最も高く、次いで「子育てを通じて知り合った友人」の割合が41.5%、「あてはまる人はいない」の割合が24.1%となっています。

前回調査と比較すると、「あてはまる人はいない」の割合が増加しています。一方、「子育てを通じて知り合った友人」の割合が減少しています。



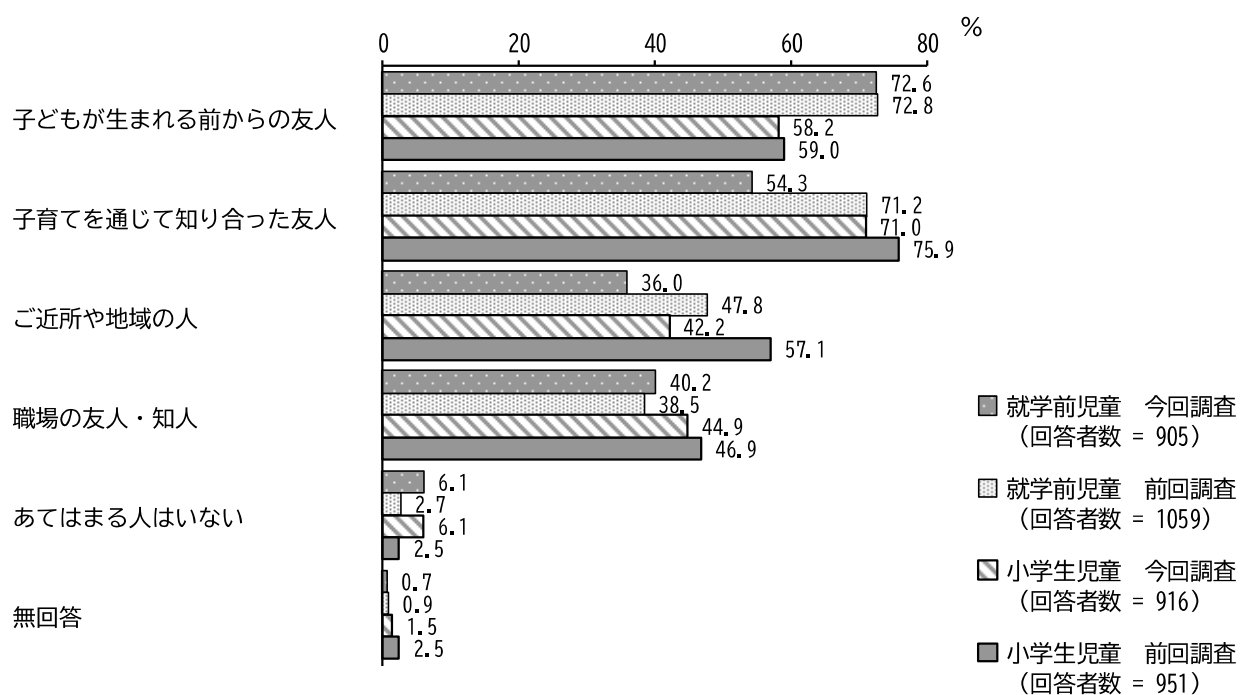
### ⑥気軽なおしゃべりができる

就学前児童では、「子どもが生まれる前からの友人」の割合が72.6%と最も高く、次いで「子育てを通じて知り合った友人」の割合が54.3%、「職場の友人・知人」の割合が40.2%となっています。

前回調査と比較すると、「子育てを通じて知り合った友人」「ご近所や地域の人」の割合が減少しています。

小学生児童では、「子育てを通じて知り合った友人」の割合が71.0%と最も高く、次いで「子どもが生まれる前からの友人」の割合が58.2%、「職場の友人・知人」の割合が44.9%となっています。

前回調査と比較すると、「ご近所や地域の人」の割合が減少しています。





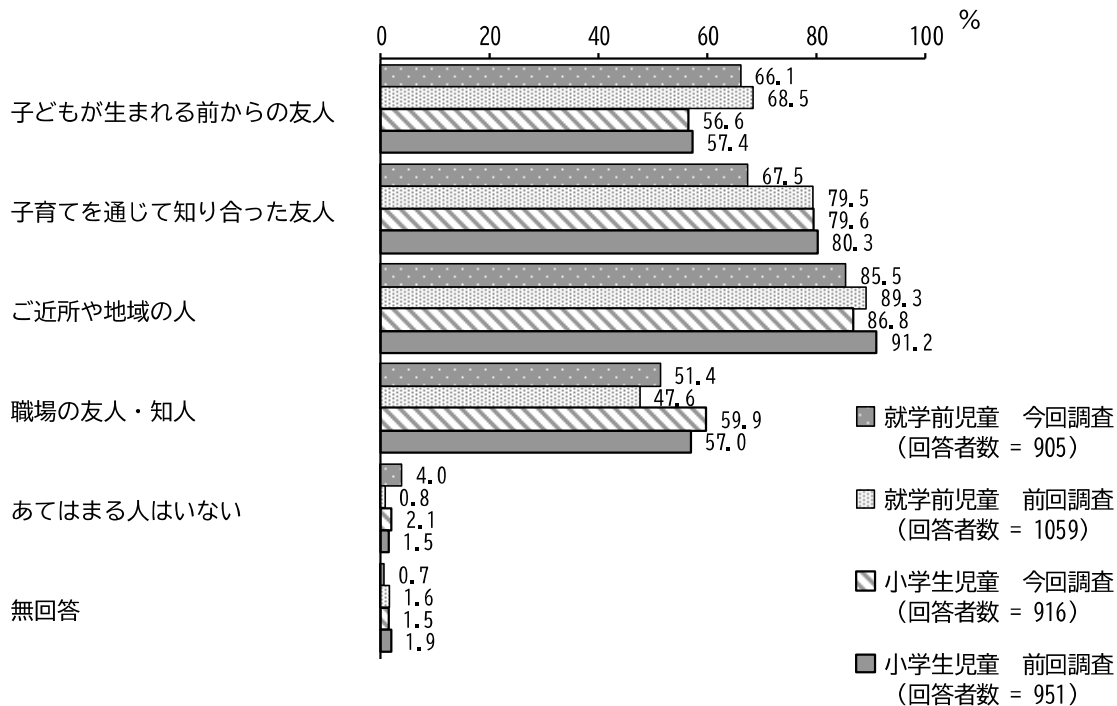
## ⑦あいさつをする

就学前児童では、「ご近所や地域の人」の割合が85.5%と最も高く、次いで「子育てを通じて知り合った友人」の割合が67.5%、「子どもが生まれる前からの友人」の割合が66.1%となっています。

前回調査と比較すると、「子育てを通じて知り合った友人」の割合が減少しています。

小学生児童では、「ご近所や地域の人」の割合が86.8%と最も高く、次いで「子育てを通じて知り合った友人」の割合が79.6%、「職場の友人・知人」の割合が59.9%となっています。

前回調査と比較すると、大きな変化はみられません。

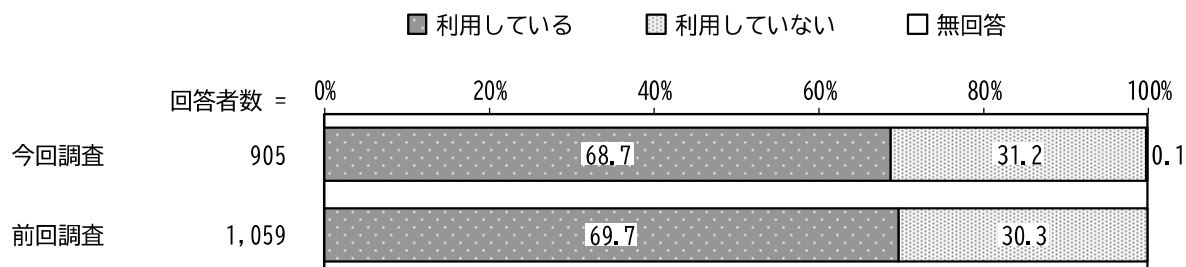


## 4 平日の定期的な教育・保育サービスの利用状況について（就学前児童）

### （1）平日の定期的な教育・保育サービスの利用の有無〈単数回答〉

【就学前児童：問4-1】

「利用している」の割合が68.7%、「利用していない」の割合が31.2%となっています。前回調査と比較すると、大きな変化はみられません。

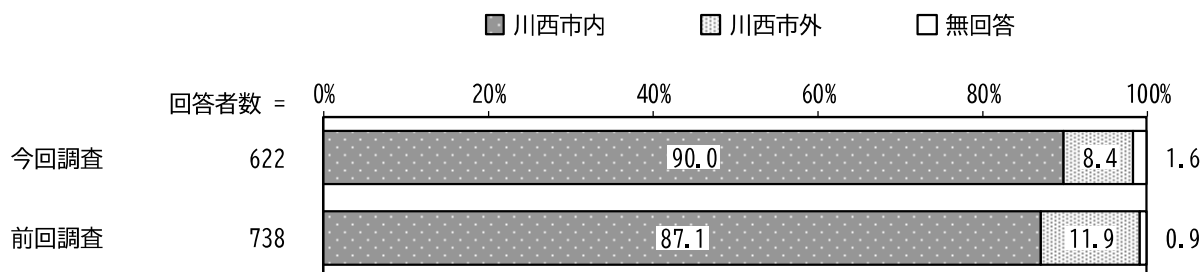


### （1）で「利用している」を選んだ方

### （2）平日の定期的な教育・保育サービスの利用の実施場所〈単数回答〉

【就学前児童：問4-2】

「川西市内」の割合が90.0%、「川西市外」の割合が8.4%となっています。前回調査と比較すると、大きな変化はみられません。



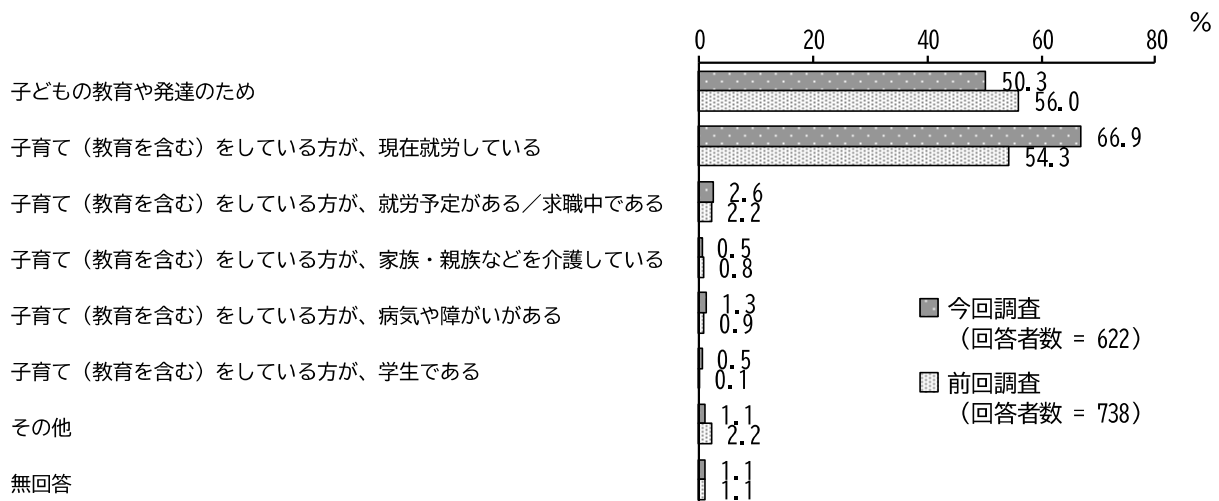
(1) で「利用している」を選んだ方

(3) 平日に定期的な教育・保育サービスを利用する主な理由〈複数回答〉

【就学前児童：問4-3】

就学前児童では、「子育て（教育を含む）をしている方が、現在就労している」の割合が 66.9% と最も高く、次いで「子どもの教育や発達のため」の割合が 50.3% となっています。

前回調査と比較すると、「子育て（教育を含む）をしている方が、現在就労している」の割合が増加しています。一方、「子どもの教育や発達のため」の割合が減少しています。



〔年齢別〕

年齢別にみると、年齢が高くなるにつれ「子どもの教育や発達のため」の割合が高くなる傾向がみられます。また、年齢が低くなるにつれ「子育て（教育を含む）をしている方が、現在就労している」の割合が高くなる傾向がみられます。

区分	0歳児		1歳児		2歳児		3歳児		4歳児		5歳児	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
子どもの教育や発達のため	8	18.6	15	22.7	29	39.2	66	60.0	97	60.2	67	62.6
子育て（教育を含む）をしている方が、現在就労している	40	93.0	60	90.9	58	78.4	70	63.6	85	52.8	66	61.7
子育て（教育を含む）をしている方が、就労予定がある／求職中である	1	2.3	3	4.5	1	1.4	2	1.8	5	3.1	4	3.7
子育て（教育を含む）をしている方が、家族・親族などを介護している	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	1.9
子育て（教育を含む）をしている方が、病気や障がいがある	-	-	1	1.5	2	2.7	2	1.8	-	-	2	1.9
子育て（教育を含む）をしている方が、学生である	-	-	-	-	-	-	2	1.8	1	0.6	-	-
その他	-	-	1	1.5	4	5.4	-	-	2	1.2	-	-
無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	2	1.2	-	-

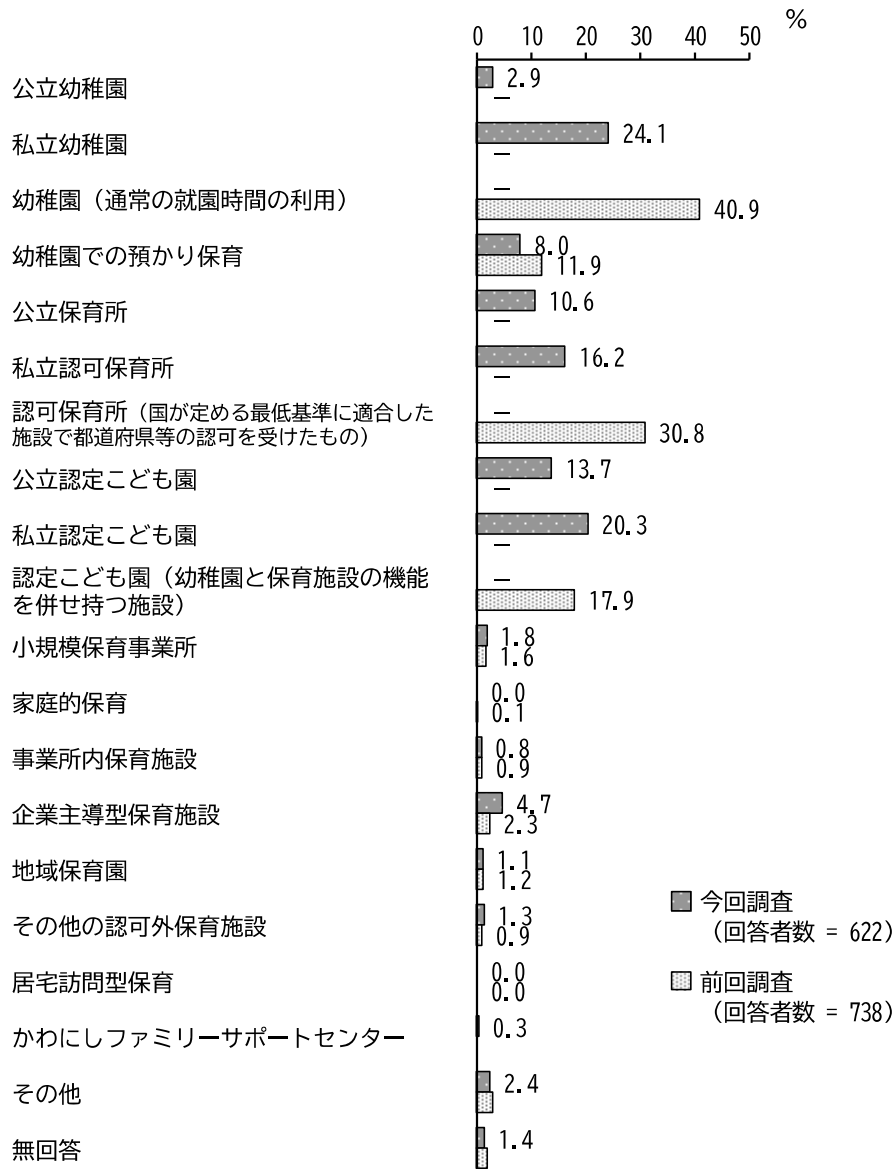
(1) で「利用している」を選んだ方

(4) 平日利用している教育・保育サービス〈複数回答〉

【就学前児童：問4-4】

就学前児童では、「私立幼稚園」の割合が24.1%と最も高く、次いで「私立認定こども園」の割合が20.3%、「私立認可保育所」の割合が16.2%となっています。

前回調査と比較すると、こども園の割合が高くなっており、幼稚園の割合が低くなっています。



※前回調査と選択肢が異なるため、参考として前回調査の結果を掲載します。

※前回調査の結果が「-」となっている選択肢は、今回調査で新たに追加された選択肢です。

※今回調査の結果が「-」となっている選択肢は、今回調査で削除された選択肢です。

〔年齢別〕

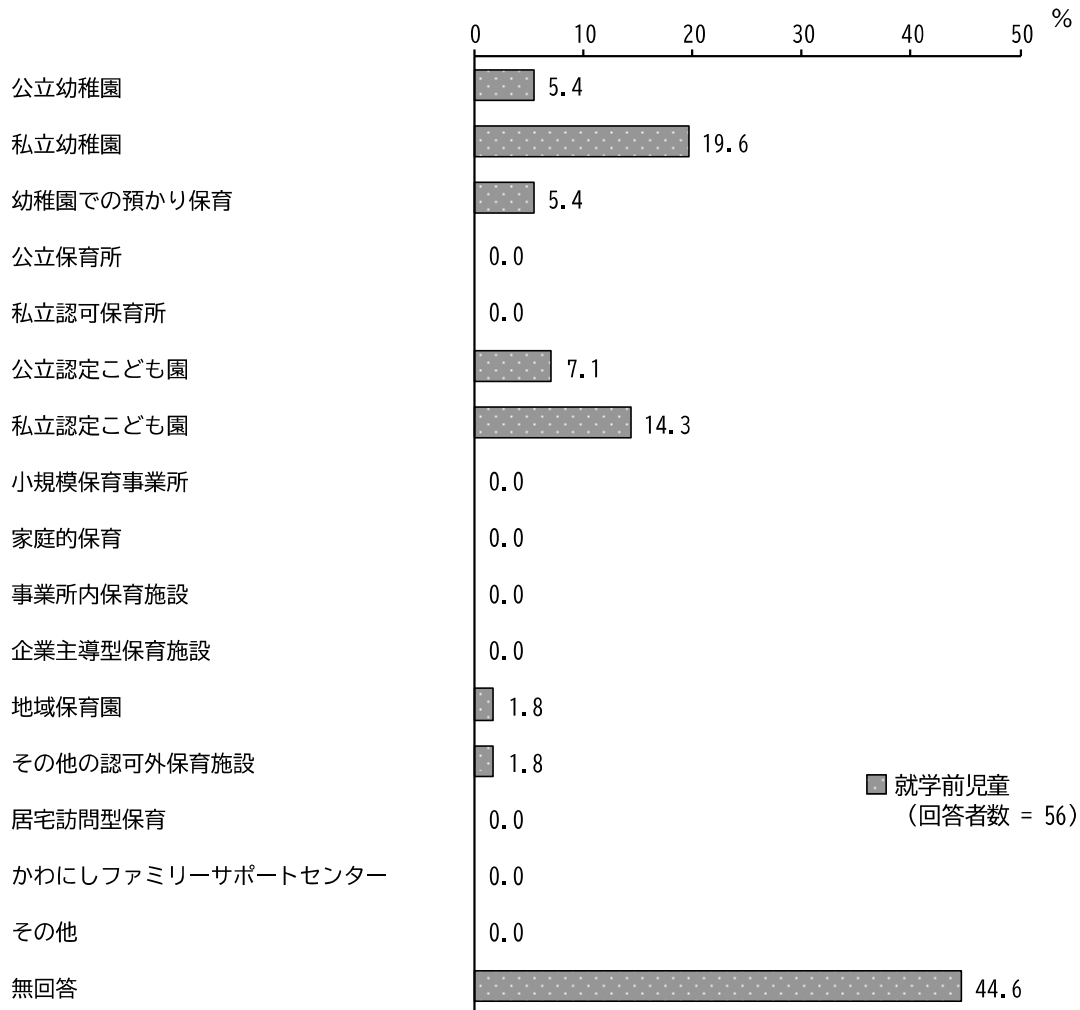
年齢別にみると、年齢が高くなるにつれ「私立幼稚園」の割合が高くなる傾向がみられます。また、0歳、1歳で「私立認可保育所」の割合が、1歳で「企業主導型保育施設」の割合が高くなっているほか、3歳で「私立認定こども園」の割合が、4歳以上で「幼稚園での預かり保育」の割合が高くなっています。

区分	0歳児		1歳児		2歳児		3歳児		4歳児		5歳児	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
公立幼稚園	—	—	—	—	3	4.1	2	1.8	5	3.1	4	3.7
私立幼稚園	—	—	2	3.0	5	6.8	28	25.5	59	36.6	42	39.3
幼稚園での預かり保育	—	—	—	—	1	1.4	9	8.2	20	12.4	15	14.0
公立保育所	1	2.3	5	7.6	14	18.9	13	11.8	15	9.3	9	8.4
私立認可保育所	13	30.2	18	27.3	13	17.6	13	11.8	18	11.2	17	15.9
公立認定こども園	6	14.0	11	16.7	9	12.2	17	15.5	22	13.7	12	11.2
私立認定こども園	13	30.2	9	13.6	13	17.6	30	27.3	34	21.1	21	19.6
小規模保育事業所	3	7.0	3	4.5	5	6.8	—	—	—	—	—	—
家庭的保育	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
事業所内保育施設	2	4.7	2	3.0	—	—	—	—	—	—	—	—
企業主導型保育施設	2	4.7	12	18.2	5	6.8	3	2.7	5	3.1	—	—
地域保育園	3	7.0	2	3.0	—	—	1	0.9	1	0.6	—	—
その他の認可外保育施設	—	—	2	3.0	2	2.7	2	1.8	—	—	—	—
居宅訪問型保育	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
かわにしファミリーサポートセンター	1	2.3	—	—	—	—	—	—	1	0.6	—	—
その他	—	—	2	3.0	3	4.1	3	2.7	3	1.9	1	0.9
無回答	1	2.3	1	1.5	1	1.4	1	0.9	1	0.6	1	0.9

（４）平日に主として（最も長い時間）利用している教育・保育サービス〈単数回答〉

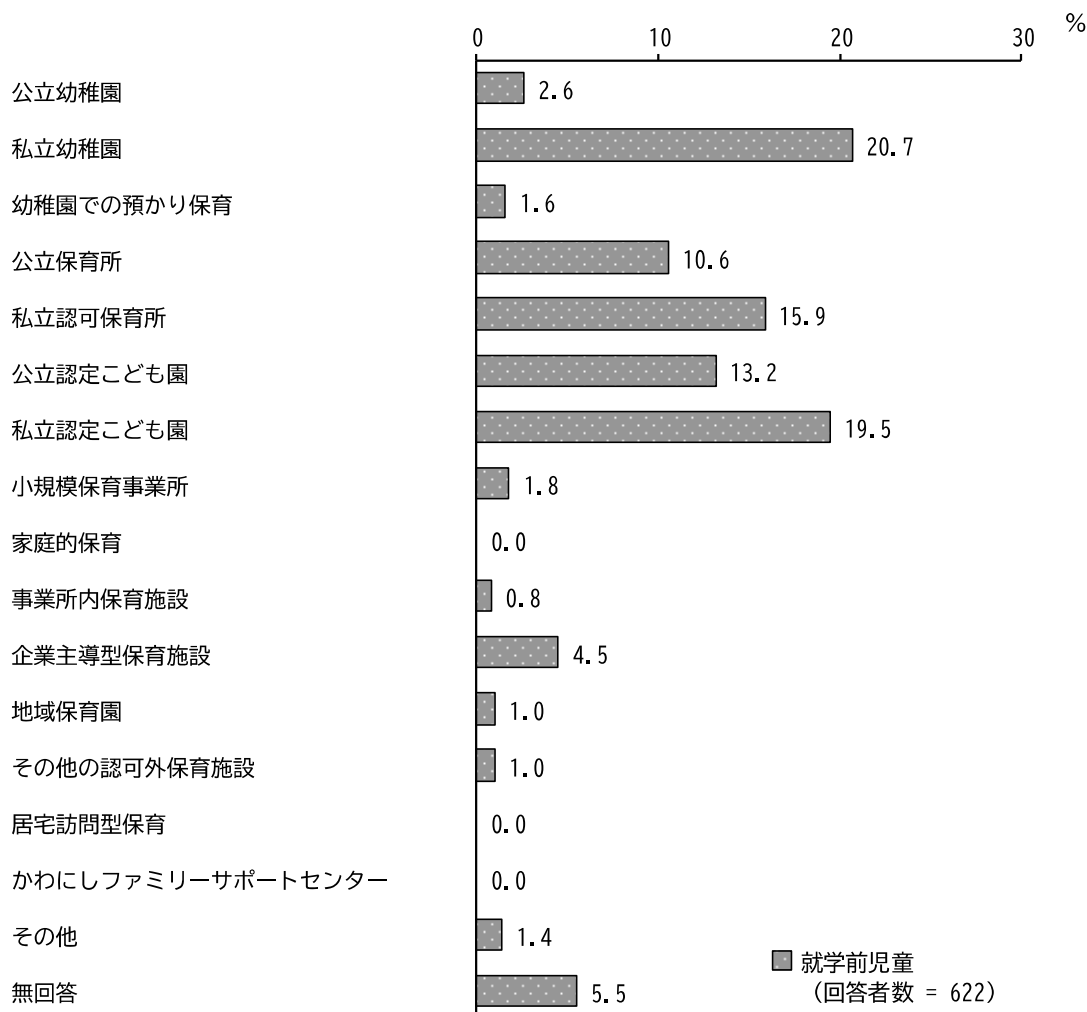
①複数のサービスを選択した方の平日に主として利用している教育・保育サービス

「私立幼稚園」の割合が19.6%と最も高く、次いで「私立認定こども園」の割合が14.3%となっています。



② 1つのサービスおよび複数のサービスを選択した方の平日に主として利用している教育・保育サービス

「私立幼稚園」の割合が20.7%と最も高く、次いで「私立認定こども園」の割合が19.5%、「私立認可保育所」の割合が15.9%となっています。

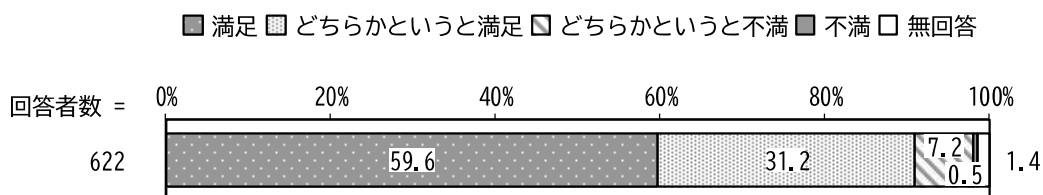


(1) で「利用している」を選んだ方

(5) 利用している教育・保育サービスの満足度〈単数回答〉 【就学前児童：問4-5】

(1) 満足度

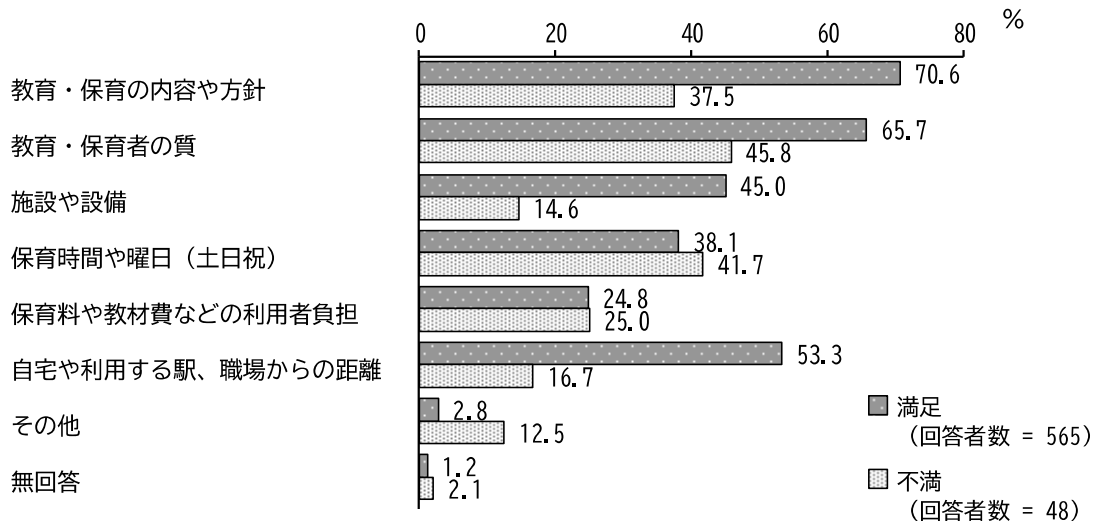
「満足」の割合が59.6%と最も高く、次いで「どちらかという満足」の割合が31.2%となっています。



(2) 満足度の理由〈複数回答〉

満足((1)の「満足」と「どちらかという満足」の合計)の理由としては、「教育・保育の内容や方針」の割合が70.6%と最も高く、次いで「教育・保育者の質」の割合が65.7%、「自宅や利用する駅、職場からの距離」の割合が53.3%となっています。

不満((1)の「どちらかと言うと不満」と「不満」の合計)の理由としては、「教育・保育者の質」の割合が45.8%と最も高く、次いで「保育時間や曜日(土日祝)」の割合が41.7%、「教育・保育の内容や方針」の割合が37.5%となっています。





(1) で「利用している」を選んだ方

(6) 平日に利用している教育・保育サービスの現在の利用状況と利用希望〈数量回答〉

【就学前児童：問4-6】

(1) 1週当たりの利用日数

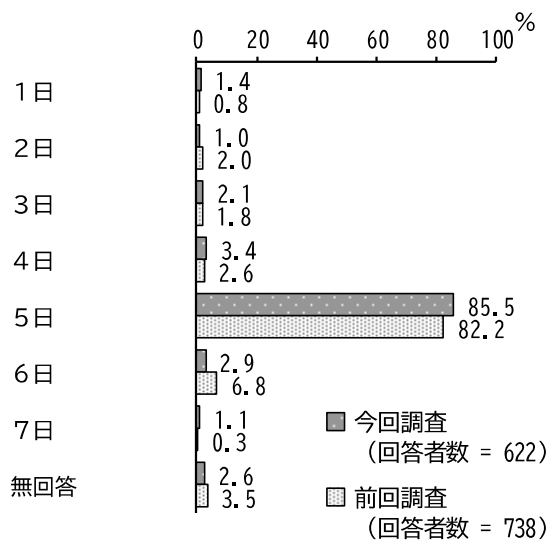
現在の利用状況では、「5日」の割合が85.5%と最も高くなっています。

前回調査と比較すると、大きな変化はみられません。

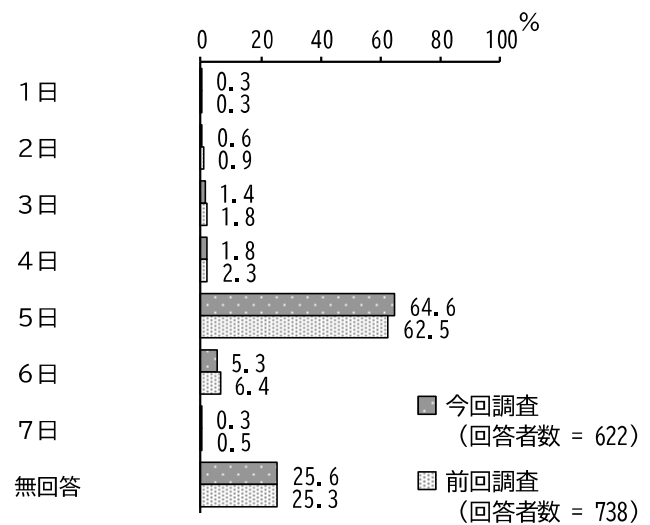
希望では、「5日」の割合が64.6%と最も高くなっています。

前回調査と比較すると、大きな変化はみられません。

〔現在の利用状況〕



〔希望〕



(2) 1日当たりの利用時間

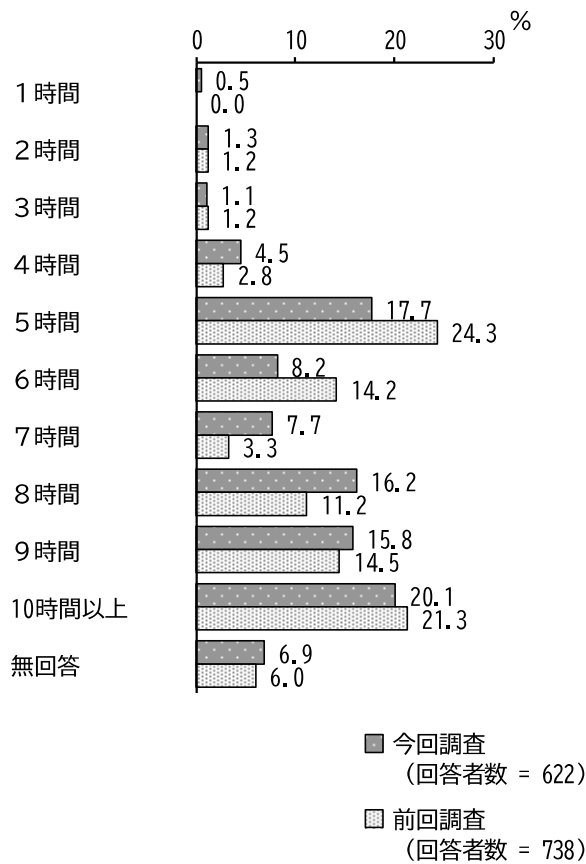
現在の利用状況では、「10時間以上」の割合が20.1%と最も高く、次いで「5時間」の割合が17.7%、「8時間」の割合が16.2%となっています。

前回調査と比較すると、「5時間」「6時間」の割合が減少しています。

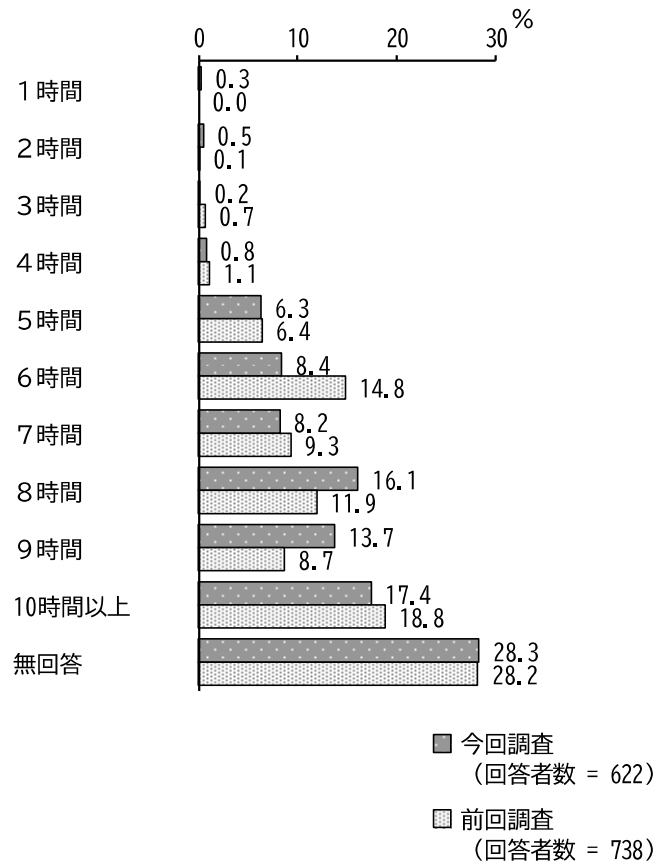
希望では、「10時間以上」の割合が17.4%と最も高く、次いで「8時間」の割合が16.1%、「9時間」の割合が13.7%となっています。

前回調査と比較すると、「6時間」の割合が減少しています。

〔現在の利用状況〕



〔希望〕



### (3) 利用開始時間

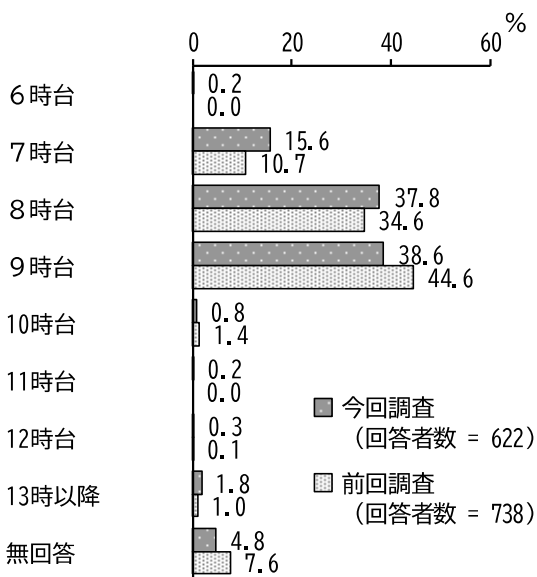
現在の利用状況では、「9時台」の割合が38.6%と最も高く、次いで「8時台」の割合が37.8%、「7時台」の割合が15.6%となっています。

前回調査と比較すると、「9時台」の割合が減少しています。

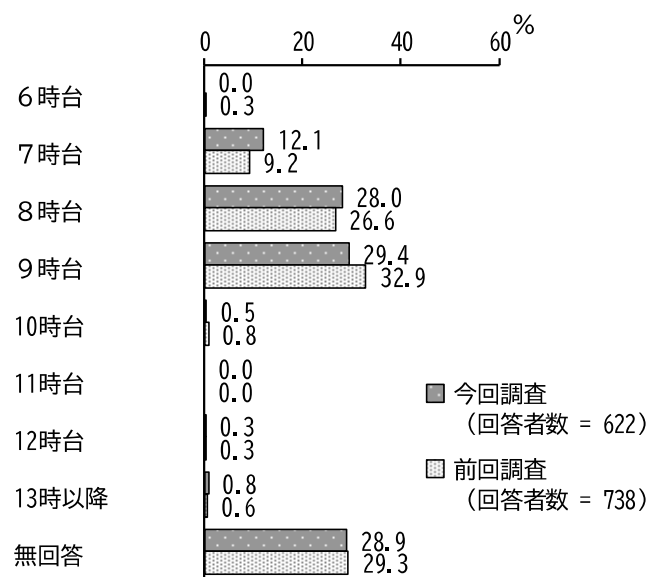
希望では、「9時台」の割合が29.4%と最も高く、次いで「8時台」の割合が28.0%、「7時台」の割合が12.1%となっています。

前回調査と比較すると、大きな変化はみられません。

〔現在の利用状況〕



〔希望〕



#### (4) 利用終了時間

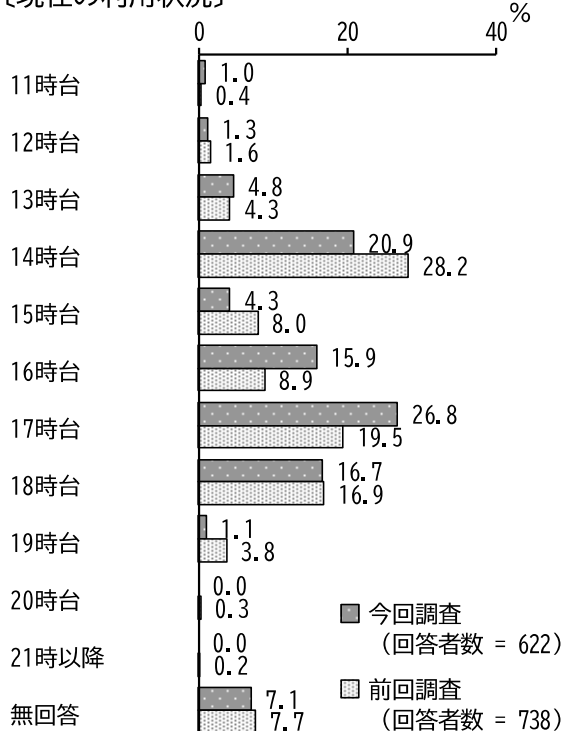
現在の利用状況では、「17 時台」の割合が 26.8%と最も高く、次いで「14 時台」の割合が 20.9%、「18 時台」の割合が 16.7%となっています。

前回調査と比較すると、「16 時台」「17 時台」の割合が増加しています。一方、「14 時台」の割合が減少しています。

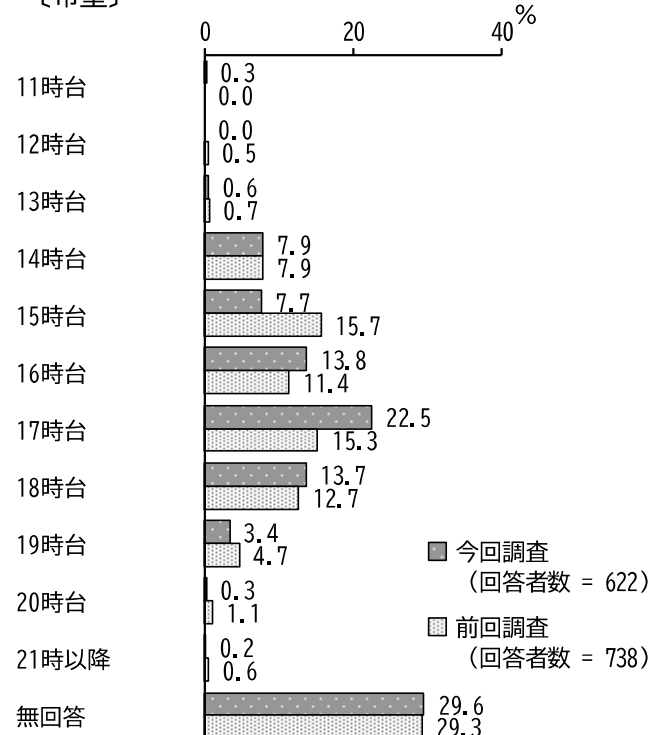
希望では、「17 時台」の割合が 22.5%と最も高く、次いで「16 時台」の割合が 13.8%、「18 時台」の割合が 13.7%となっています。

前回調査と比較すると、「17 時台」の割合が増加しています。一方、「15 時台」の割合が減少しています。

〔現在の利用状況〕



〔希望〕



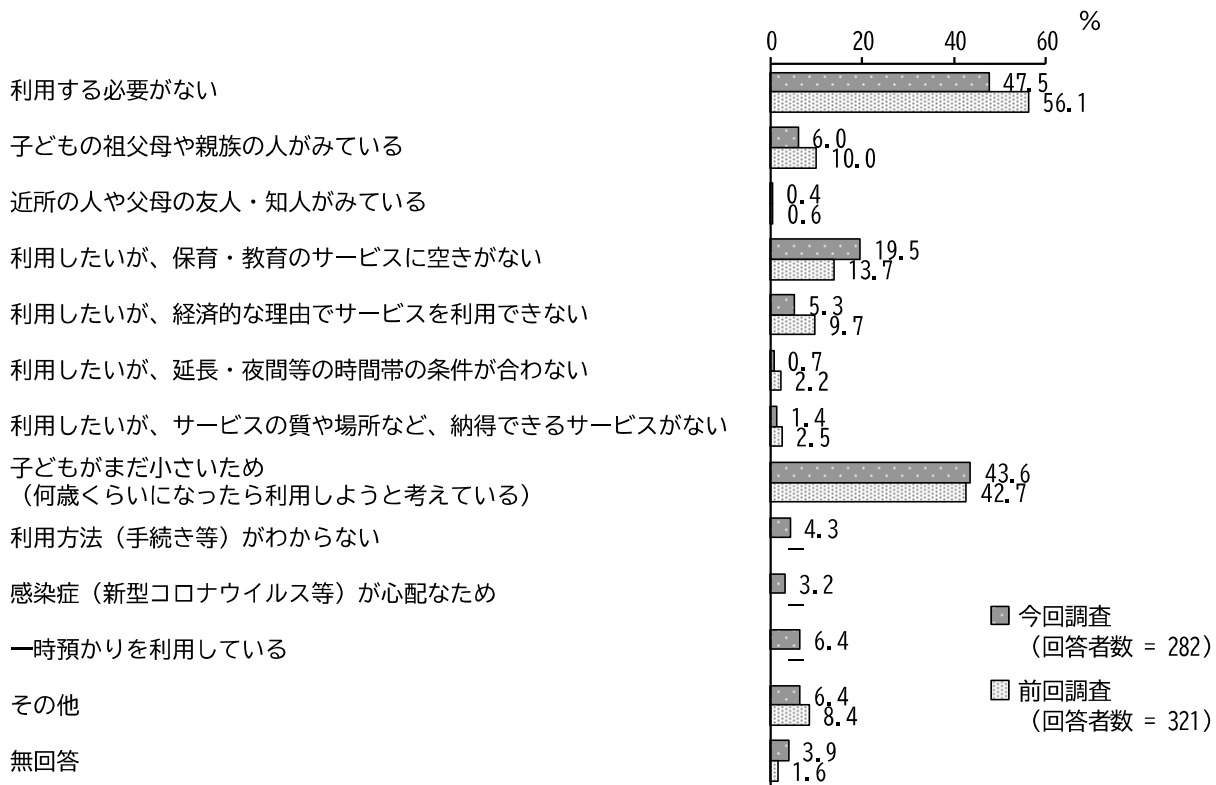
(1) で「利用していない」を選んだ方

(7) 利用していない主な理由〈複数回答〉

【就学前児童：問4-7】

就学前児童では、「利用する必要がない」の割合が47.5%と最も高く、次いで「子どもがまだ小さいため（何歳くらいになったら利用しようと考えている）」の割合が43.6%、「利用したいが、保育・教育のサービスに空きがない」の割合が19.5%となっています。

前回調査と比較すると、「利用したいが、保育・教育のサービスに空きがない」の割合が増加しています。一方、「利用する必要がない」の割合が減少しています。



※前回調査の結果が「-」となっている選択肢は、今回調査で新たに追加された選択肢です。

〔年齢別〕 就学前児童

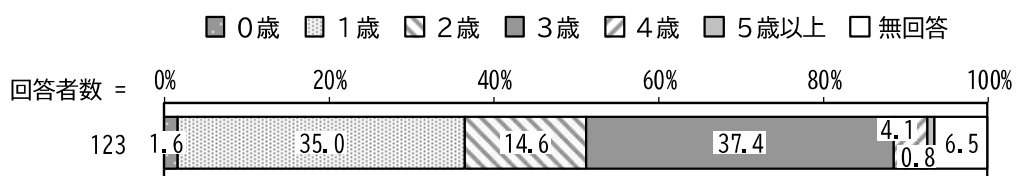
年齢別にみると、0歳から2歳にかけて年齢が高くなるにつれ「利用する必要がない」の割合が、年齢が低くなるにつれ「子どもがまだ小さいため」の割合が高くなる傾向がみられます。また、1歳で「一時預かりを利用している」の割合が高くなっています。

区分	0歳児		1歳児		2歳児		3歳児		4歳児		5歳児	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
利用する必要がない	62	39.2	27	55.1	24	70.6	3	60.0	3	75.0	2	40.0
子どもの祖父母や親族の人がみている	9	5.7	2	4.1	2	5.9	—	—	—	—	—	—
近所の人や父母の友人・知人がみている	1	0.6	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
利用したいが、保育・教育のサービスに空きがない	32	20.3	13	26.5	4	11.8	—	—	—	—	1	20.0
利用したいが、経済的な理由でサービスを利用できない	10	6.3	3	6.1	1	2.9	—	—	—	—	—	—
利用したいが、延長・夜間等の時間帯の条件が合わない	—	—	1	2.0	1	2.9	—	—	—	—	—	—
利用したいが、サービスの質や場所など、納得できるサービスがない	1	0.6	1	2.0	—	—	—	—	1	25.0	—	—
子どもがまだ小さいため（何歳くらいになったら利用しようと考えている）	85	53.8	14	28.6	8	23.5	4	80.0	—	—	—	—
利用方法（手続き等）がわからない	7	4.4	2	4.1	2	5.9	—	—	—	—	—	—
感染症（新型コロナウイルス等）が心配なため	6	3.8	—	—	2	5.9	—	—	—	—	—	—
一時預かりを利用している	6	3.8	8	16.3	1	2.9	—	—	1	25.0	1	20.0
その他	10	6.3	1	2.0	5	14.7	1	20.0	—	—	1	20.0
無回答	5	3.2	4	8.2	—	—	—	—	—	—	—	—

「子どもがまだ小さいため」を選んだ方

何歳くらいになったら利用したいと考えているか

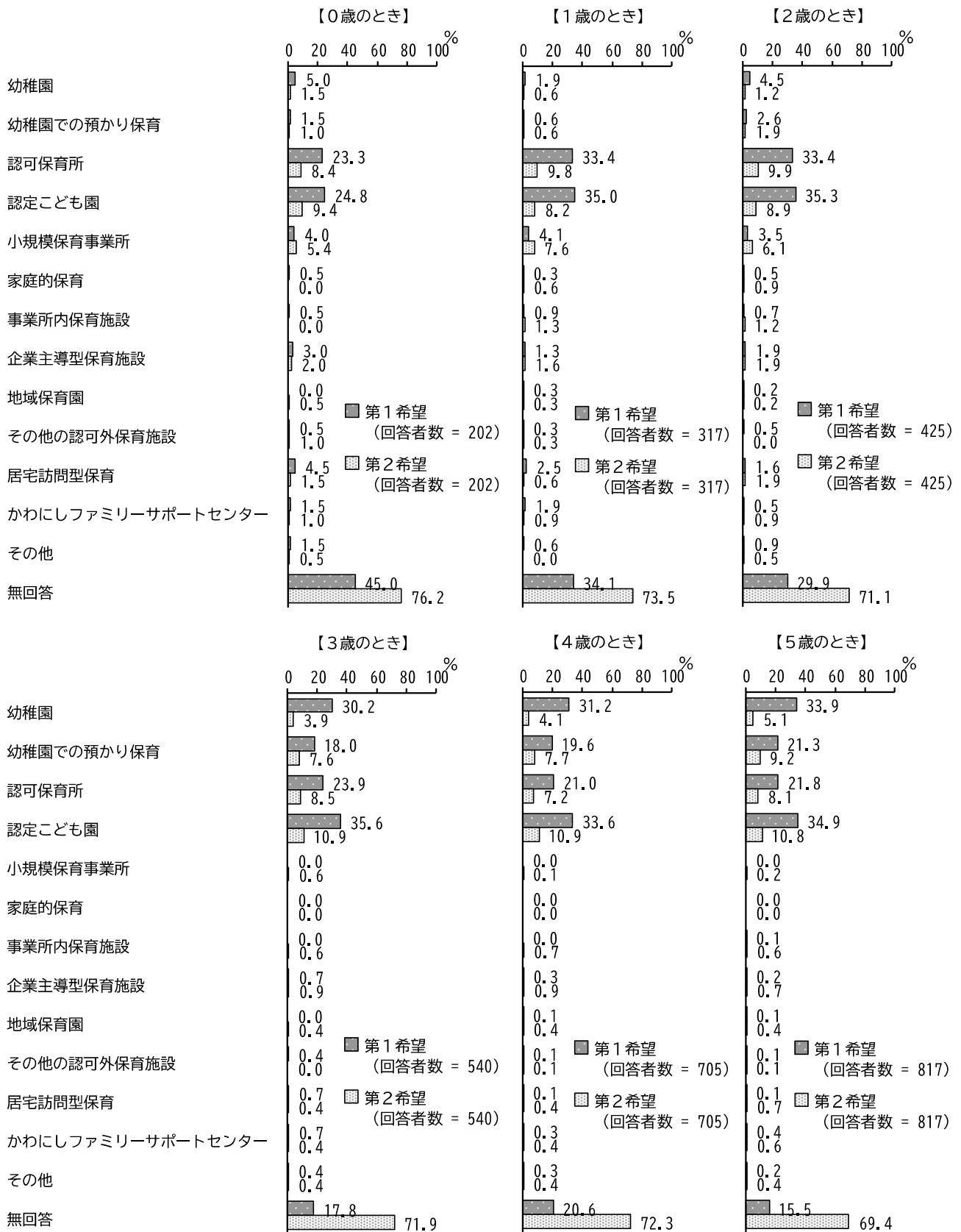
「3歳」の割合が37.4%と最も高く、次いで「1歳」の割合が35.0%、「2歳」の割合が14.6%となっています。



(8) 定期的に利用したい教育・保育サービス〈2つまで〉

【就学前児童：問4-8】

どの年齢においても「認可保育所」「認定こども園」の割合が高くなっていますが、3歳から5歳では「幼稚園」「幼稚園での預かり保育」の割合も高くなっています。

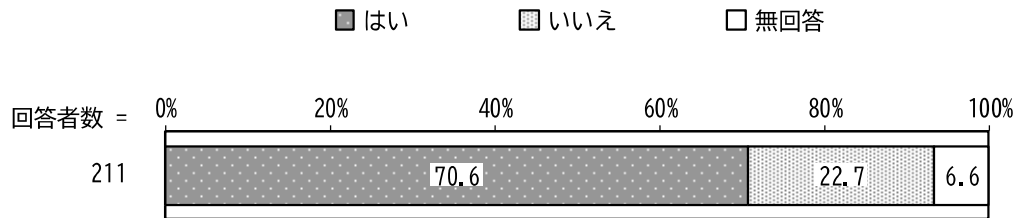


(8)で「幼稚園」「幼稚園での預かり保育」を選び、かつ「認可保育所」～「その他」を第1希望または第2希望に選んだ方

(9) 幼稚園の利用を強く希望するか〈単数回答〉

【就学前児童：問4-9】

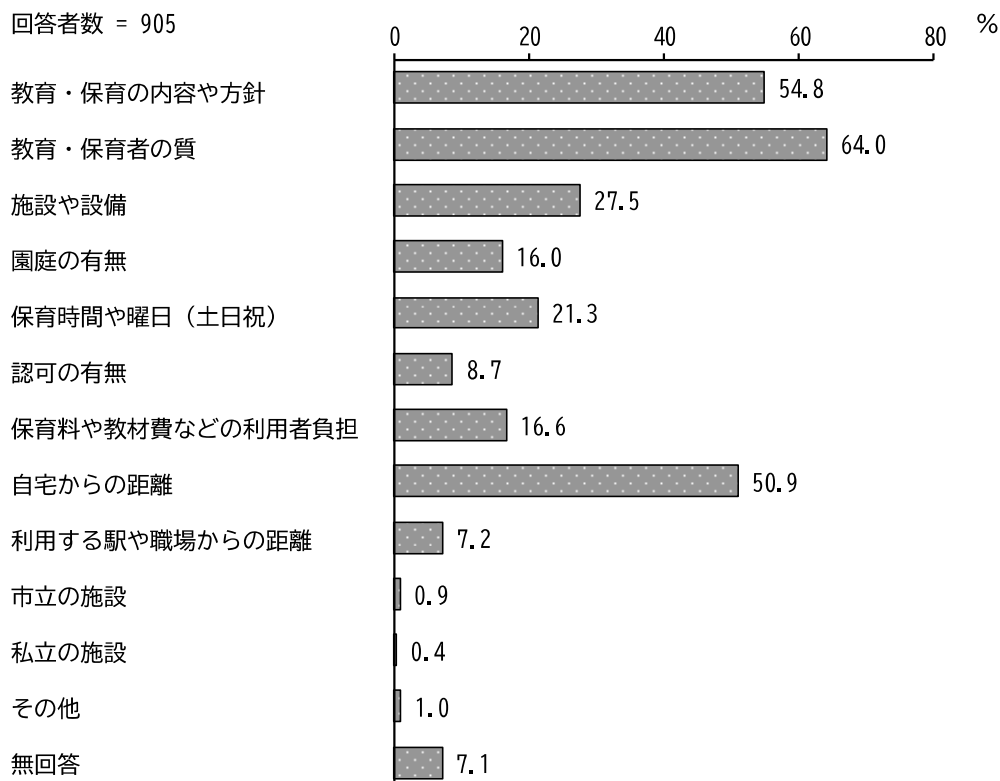
「はい」の割合が70.6%、「いいえ」の割合が22.7%となっています。



(10) 教育・保育サービスに求める条件〈最大3つ〉

【就学前児童：問4-10】

「教育・保育者の質」の割合が64.0%と最も高く、次いで「教育・保育の内容や方針」の割合が54.8%、「自宅からの距離」の割合が50.9%となっています。

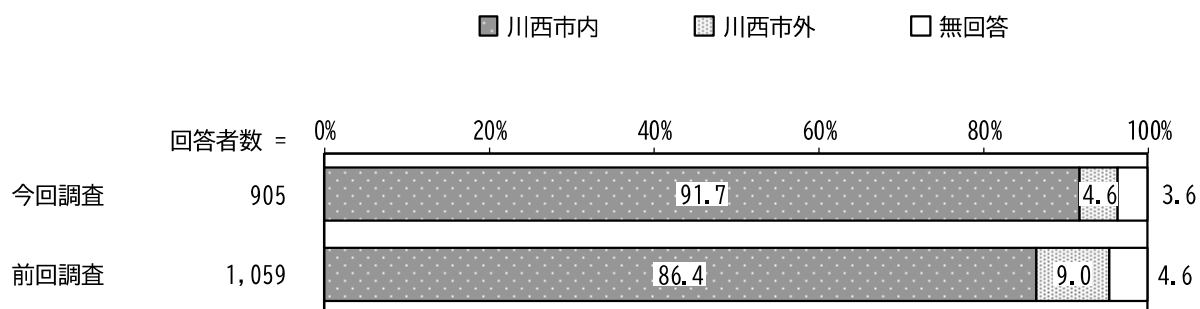




(11) 教育・保育サービスを利用したい場所〈単数回答〉

【就学前児童：問4-11】

「川西市内」の割合が91.7%、「川西市外」の割合が4.6%となっています。



## 5 保護者の就労状況について

(1) 保護者の就労状況〈単数回答〉

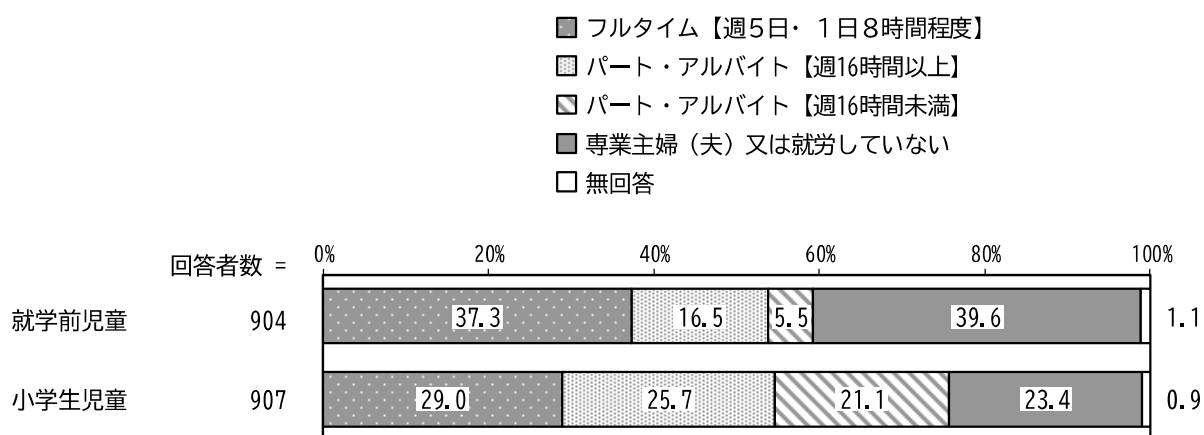
【就学前児童：問5-1】【小学生児童：問4-1】

### ①現在の就労状況

#### ア. 母親

就学前児童では、「専業主婦（夫）又は就労していない」の割合が39.6%と最も高く、次いで「フルタイム【週5日・1日8時間程度】」の割合が37.3%、「パート・アルバイト【週16時間以上】」の割合が16.5%となっています。

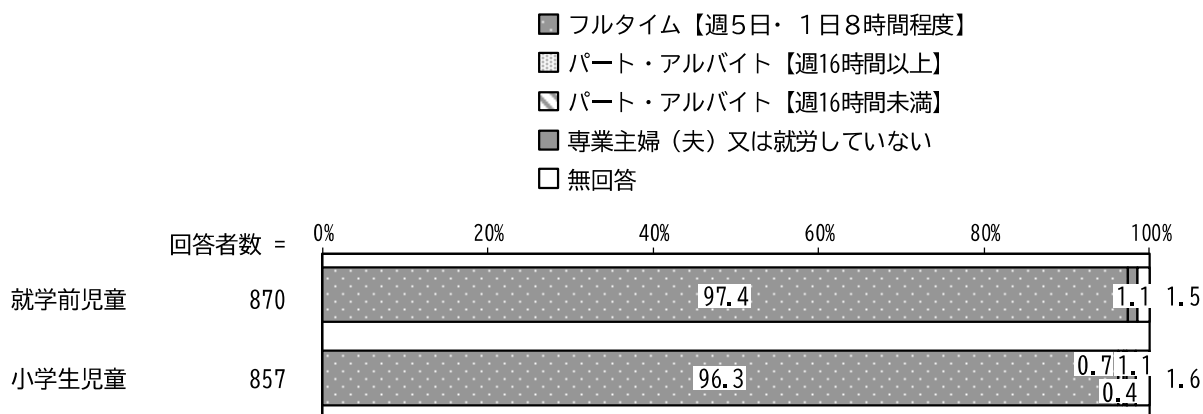
小学生児童では、「フルタイム【週5日・1日8時間程度】」の割合が29.0%と最も高く、次いで「パート・アルバイト【週16時間以上】」の割合が25.7%、「パート・アルバイト【週16時間未満】」の割合が21.1%、「専業主婦（夫）又は就労していない」の割合が23.4%となっています。



#### イ. 父親

就学前児童では、「フルタイム【週5日・1日8時間程度】」の割合が97.4%と最も高くなっています。

小学生児童では、「フルタイム【週5日・1日8時間程度】」の割合が96.3%と最も高くなっています。



ウ. 経年比較

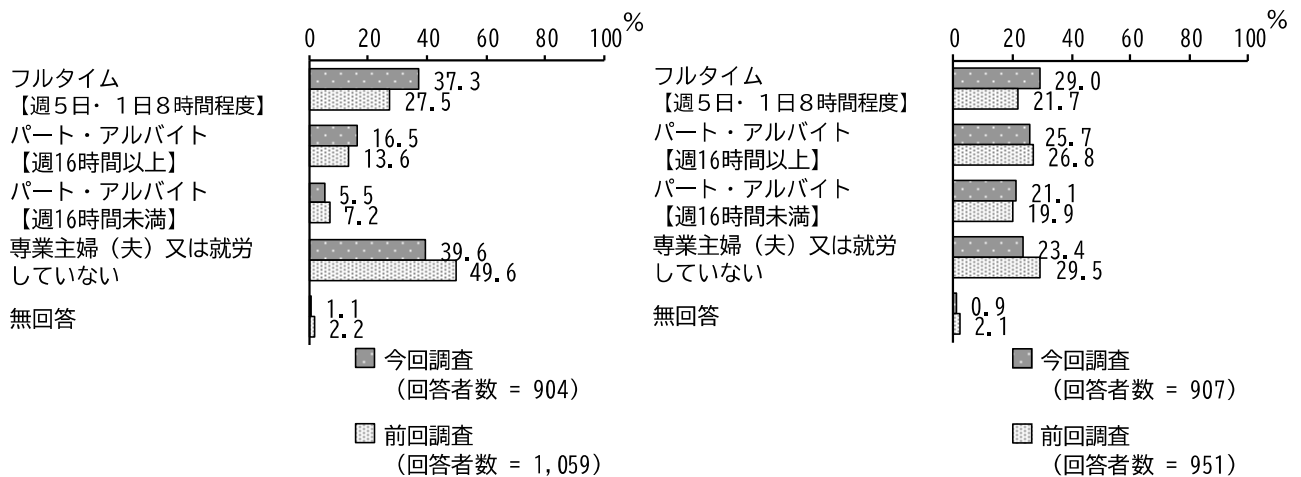
◎母親

就学前児童の前回調査と比較すると、「フルタイム【週5日・1日8時間程度】」の割合が増加しています。一方、「専業主婦（夫）又は就労していない」の割合が減少しています。

小学生児童の前回調査と比較すると、「フルタイム【週5日・1日8時間程度】」の割合が増加しています。一方、「専業主婦（夫）又は就労していない」の割合が減少しています。

〔就学前児童〕

〔小学生児童〕



〔就学前児童の年齢別〕

就学前児童の年齢別にみると、年齢が低くなるにつれ「専業主婦（夫）又は就労していない」の割合が高くなる傾向がみられます。また、5歳で「パート・アルバイト【週16時間以上】」の割合が高くなっています。

区分	0歳児		1歳児		2歳児		3歳児		4歳児		5歳児	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
フルタイム【週5日・1日8時間程度】	76	37.6	42	36.5	42	38.9	43	37.4	62	37.6	39	35.1
パート・アルバイト【週16時間以上】	16	7.9	24	20.9	18	16.7	20	17.4	27	16.4	31	27.9
パート・アルバイト【週16時間未満】	5	2.5	2	1.7	9	8.3	8	7.0	16	9.7	6	5.4
専業主婦（夫）又は就労していない	103	51.0	47	40.9	39	36.1	42	36.5	58	35.2	34	30.6
無回答	2	1.0	—	—	—	—	2	1.7	2	1.2	1	0.9

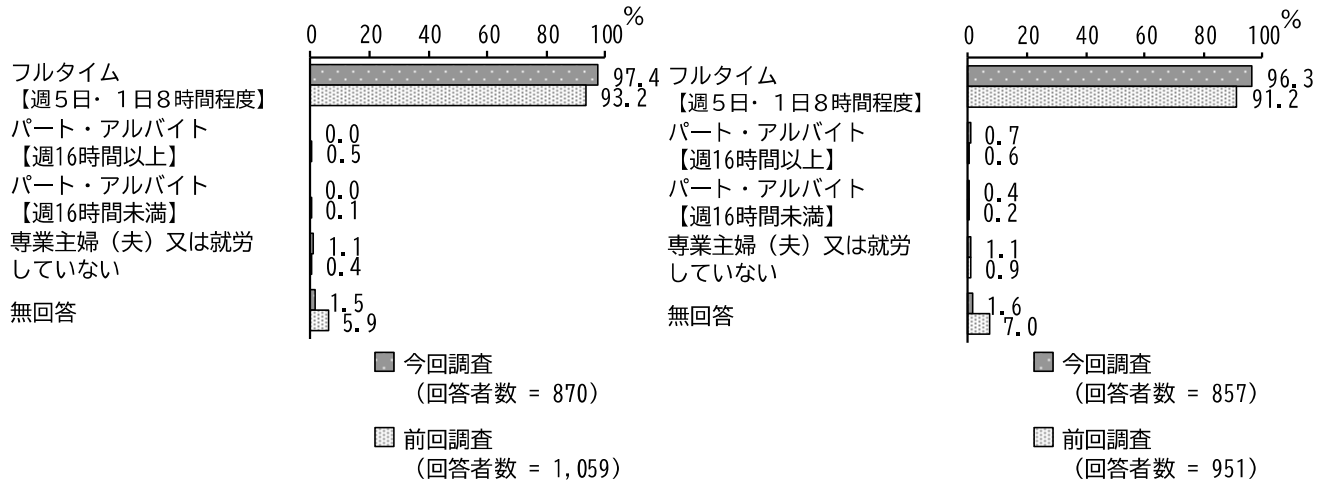
◎父 親

就学前児童の前回調査と比較すると、大きな変化はみられません。

小学生児童の前回調査と比較すると、「フルタイム【週5日・1日8時間程度】」の割合が増加しています。

〔就学前児童〕

〔小学生児童〕



## ② 1年以内の就労希望

### ア. 母親

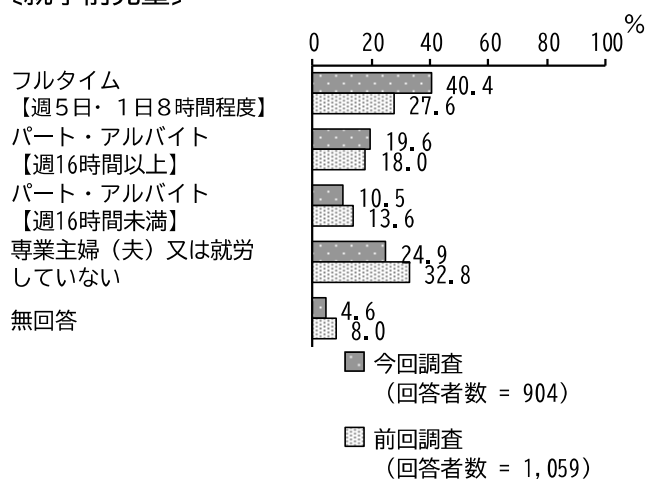
就学前児童では、「フルタイム【週5日・1日8時間程度】」の割合が40.4%と最も高く、次いで「専業主婦（夫）又は就労していない」の割合が24.9%、「パート・アルバイト【週16時間以上】」の割合が19.6%となっています。

前回調査と比較すると、「フルタイム【週5日・1日8時間程度】」の割合が増加しています。一方、「専業主婦（夫）又は就労していない」の割合が減少しています。

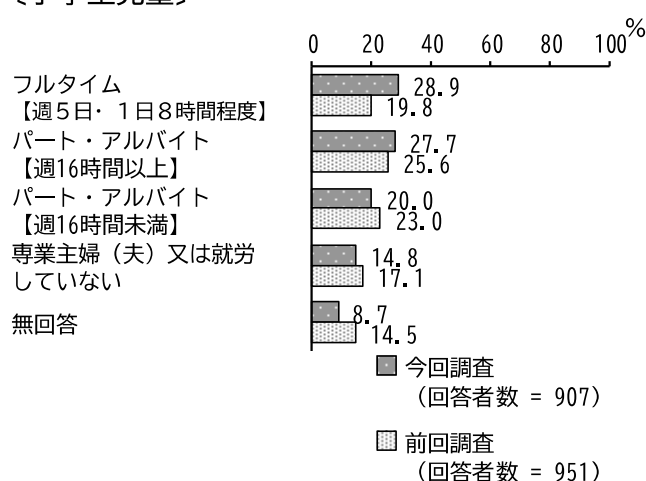
小学生児童では、「フルタイム【週5日・1日8時間程度】」の割合が28.9%と最も高く、次いで「パート・アルバイト【週16時間以上】」の割合が27.7%、「パート・アルバイト【週16時間未満】」の割合が20.0%となっています。

前回調査と比較すると、「フルタイム【週5日・1日8時間程度】」の割合が増加しています。

#### 〔就学前児童〕



#### 〔小学生児童〕



イ. 父親

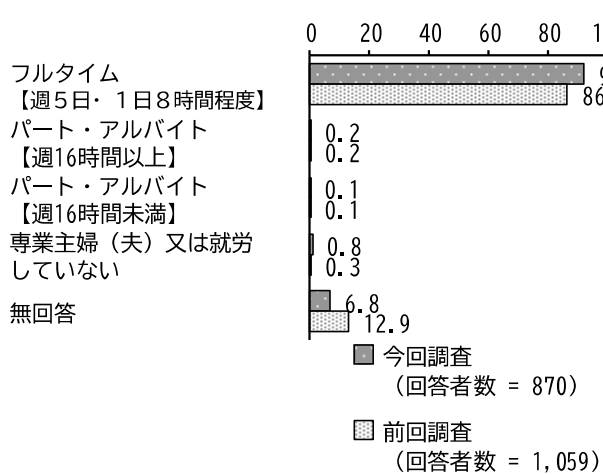
就学前児童では、「フルタイム【週5日・1日8時間程度】」の割合が92.1%と最も高くなっています。

前回調査と比較すると、「フルタイム【週5日・1日8時間程度】」の割合が増加しています。

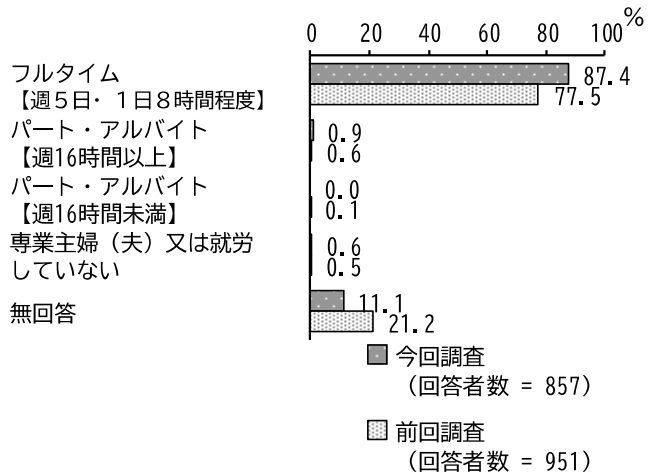
小学生児童では、「フルタイム【週5日・1日8時間程度】」の割合が87.4%と最も高くなっています。

前回調査と比較すると、「フルタイム【週5日・1日8時間程度】」の割合が増加しています。

〔就学前児童〕



〔小学生児童〕



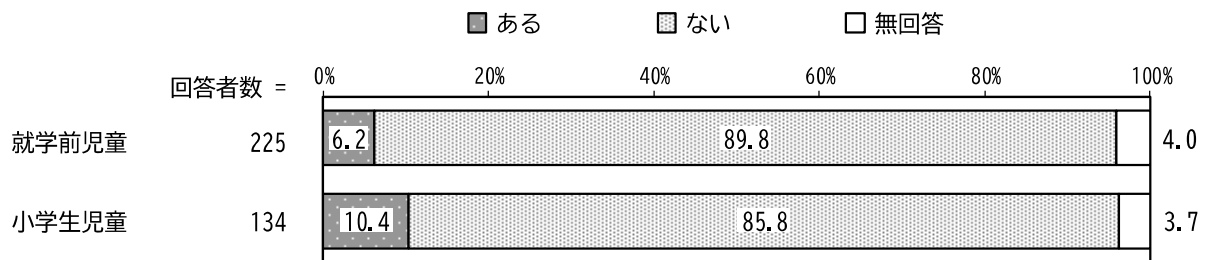
(1) の② 1年以内の就労希望で「専業主婦（夫）又は就労していない」を選んだ方

(2) 就労していない方の、1年以内の就労予定の有無〈単数回答〉

【就学前児童：問5-2】【小学生児童：問4-2】

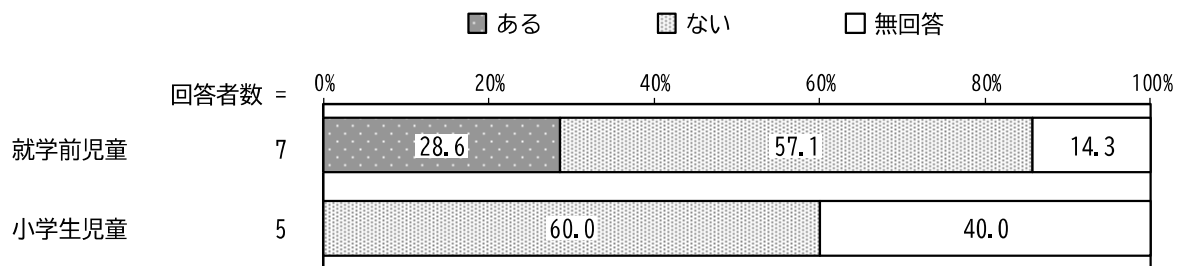
(1) 母親

就学前児童では、「ある」の割合が6.2%、「ない」の割合が89.8%となっています。  
小学生児童では、「ある」の割合が10.4%、「ない」の割合が85.8%となっています。



(2) 父親

就学前児童では、「ある」の割合が28.6%、「ない」の割合が57.1%となっています。  
小学生児童では、「ない」の割合が60.0%となっています。



(1) の② 1年以内の就労希望で「専業主婦（夫）又は就労していない」を選んだ方

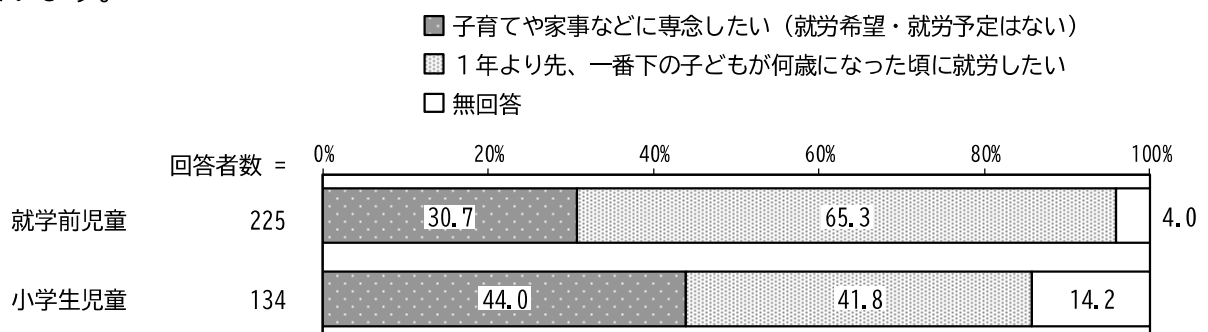
(3) 就労していない方の1年より先の就労希望〈単数回答〉

【就学前児童：問5-3】【小学生児童：問4-3】

① 母親

就学前児童では、「子育てや家事などに専念したい（就労希望・就労予定はない）」の割合が30.7%、「1年より先、一番下の子どもが何歳になった頃に就労したい」の割合が65.3%となっています。

小学生児童では、「子育てや家事などに専念したい（就労希望・就労予定はない）」の割合が44.0%、「1年より先、一番下の子どもが何歳になった頃に就労したい」の割合が41.8%となっています。



「一番下の子どもが何歳かになった頃に就労したい」を選んだ方

◎一番下の子どもが何歳になれば就労したいか＜数量回答＞

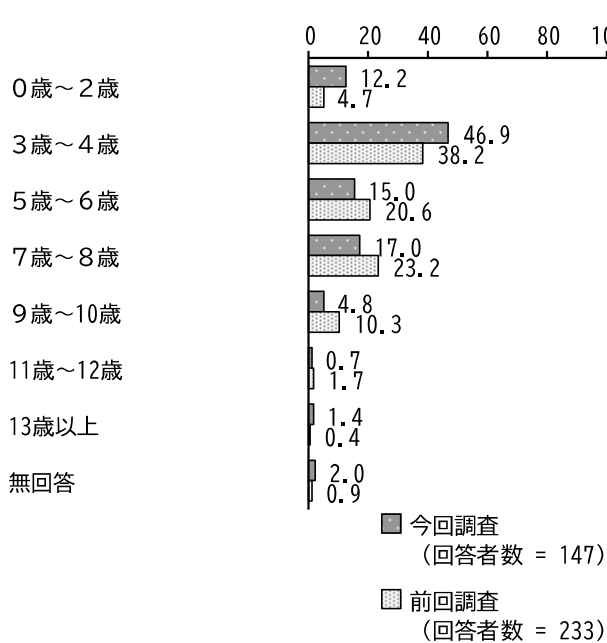
就学前児童では、「3歳～4歳」の割合が46.9%と最も高く、次いで「7歳～8歳」の割合が17.0%、「5歳～6歳」の割合が15.0%となっています。

前回と比較すると、「0歳～2歳」「3歳～4歳」の割合が増加し、「5歳～6歳」「7歳～8歳」「9歳～10歳」の割合が減少しています。

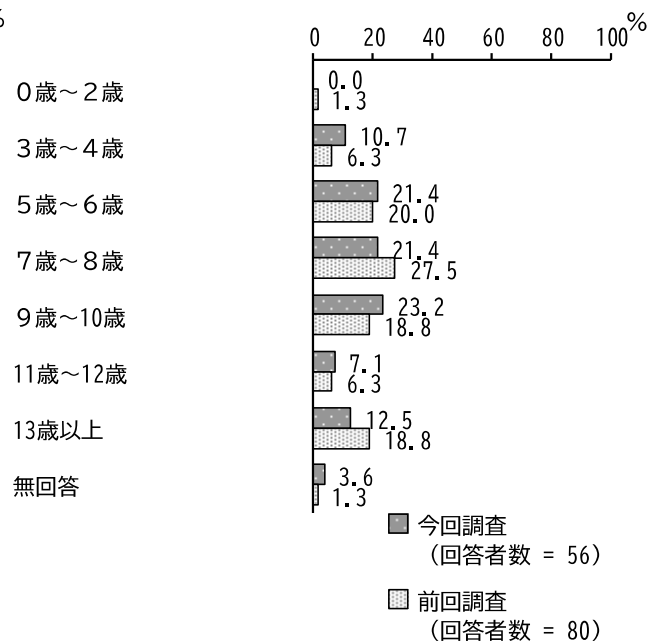
小学生児童では、「9～10歳」の割合が23.2%と最も高く、次いで「5～6歳」、「7～8歳」の割合が21.4%となっています。

前回調査と比較すると、「7～8歳」「13歳以上」の割合が減少しています。

〔就学前児童〕



〔小学生児童〕



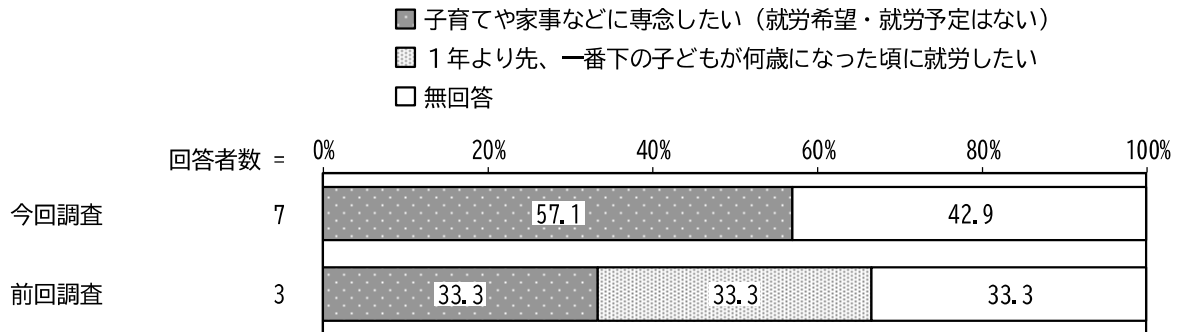


## ②父 親

### 〔就学前児童〕

「子育てや家事などに専念したい（就労希望・就労予定はない）」が57.1%となっています。

前回調査と比較すると、「子育てや家事などに専念したい（就労希望・就労予定はない）」の割合が増加しています。一方、「1年より先、一番下の子どもが何歳になった頃に就労したい」の割合が減少しています。



### 〔小学生児童〕

「子育てや家事などに専念したい（就労希望・就労予定はない）」が20.0%となっています。

前回調査と比較すると、「子育てや家事などに専念したい（就労希望・就労予定はない）」の割合が減少しています。

